

VIII 革新支援担当

1 活動内容

平成27年度

農業革新支援担当 普及活動の成果

農業技術研究センター



埼玉県のマスコット
「コバトン」「さいたまっちゃん」

目 次

1	活動方針	82
2	活動内容	82
3	活動体制	82
4	活動実績	
(1)	重点プロジェクト	84
(2)	新たな技術の現地実証・普及	94
(3)	農林振興センターの普及活動の支援	103
(4)	先進的な農業者等からの高度かつ専門的な技術・経営相談	113
(5)	調査研究	116
(6)	普及指導員に対する研修指導	123
(7)	専門項目別技術連携会議	128
(8)	全国レベルの農業賞の推進	133
(9)	気象災害等の技術対策	134
(10)	その他	
ア	情報誌等への原稿執筆状況	135
イ	講演・助言・コーディネート活動状況	136
ウ	委員会等委嘱活動	145
5	平成27年度農作物の生育状況	148

1 活動方針

農業革新支援専門員は、埼玉県5か年計画「埼玉農林業・農山村振興ビジョン」の実現を図るため、試験研究機関等との連携強化による専門性の高度化や政策課題への対応、産地や地域における技術・経営的な課題や先進的な農業者等への技術・経営支援等の県域的な普及活動を行った。

2 活動内容

農業革新支援専門員は分担する専門分野を中心に次の活動を行い、効果的・効率的な普及活動を推進した。

- (1) 試験研究との連携及び新たな技術の現地実証・普及に係わる活動
- (2) 県域的な普及活動に関する企画・調整支援
 - ◇普及活動計画の連携・支援 ◇関係各課・関係団体との連携調整
 - ◇調査研究・政策提言 ◇農業情報の推進
- (3) 農業支援部の普及活動の支援及び普及活動
- (4) 先進的な農業者等からの高度かつ専門的な技術・経営相談
- (5) 普及指導員の育成に係る研修の企画・実施

3 活動体制

- (1) 次のとおり専門技術項目を担当した。

[担当する分野]

分 野	人数	担 当
作物・野菜・花植木	1	荻野時男
作 物	2	田中克典、松本明夫
野 菜	2	齋藤 仁、赤羽孝之
果 樹	2	片野敏夫、小野田実
花植木	2	小磯由美、井上玲子
畜 産	2	渡辺喜正、大宅秀史
茶	3	小川英之、佐々木功二、田中江里
6次産業化（農産物活用）	2	河野律子、河野 悟
経 営	1	本間利明
	17	

[兼務する分野]

分 野	担 当	分 野	担 当
こんにゃく	小川英之	養蚕	赤羽孝之
就農	齋藤 仁	普及指導活動	本間利明
震災対策	大宅秀史	鳥獣害	片野敏夫
病虫害	小磯由美	土壌肥料	小野田実
GAP	赤羽孝之	農作業安全	松本明夫
地球温暖化	井上玲子		

[農業革新支援担当の配置]


場 所	人数	担 当
農業技術研究センター本所	10	荻野時男、田中克典、渡辺喜正、松本明夫 大宅秀史、齋藤 仁、本間利明、小磯由美 赤羽孝之、井上玲子
〃 久喜試験場	2	片野敏夫、小野田実
茶業研究所	3	小川英之、佐々木功二、田中江里
農業ビジネス課	2	河野律子、河野 悟
合 計	17	


[農林振興センター別担当者]

	さいたま	川越	東松山	秩父	本庄	大里	加須	春日部
窓口担当者	齋藤	小川	小野田	大宅	本間	小磯	松本	片野

4 活動実績

(1) 重点プロジェクト


テーマ	1 小麦「さとのそらの」生産安定技術	
担当者名	田中(克)、松本	
<p>「農業新技術2011」、「さとのそら栽培指針(暫定版)」や過去の成果等を踏まえ、地域に応じた施肥基準(県指定採種を含む)等の実証を行い、得られた成果の普及により「さとのそら」の安定生産をすすめた。</p> <p>① 基肥一発施肥体系の組み立て実証 ② 基肥+追肥体系の組み立て実証</p> <p>活動内容</p> <p>1 8農林振興センター巡回により実証試験の確認と経過打ち合わせ。農業技術センター(玉井試験場)、生産振興課や、全農、米麦改良協会等関係団体への計画説明(4~5月) 実証ほ成績検討会及び技術連携会議で各農林振興センターと情報交換(10/1, 2/15)</p> <p>2 巡回と収量調査、品質分析 各農林振興センター実証ほ巡回(5月中旬~6月中旬) 各試験ほサンプル収集(~7月下旬) 外観品質(JA検査員)とタンパク質含有率、容積重測定(8月)</p> <p>3 埼玉県民間流通地方連絡協議会(8/3) 参集者: 製粉協会、小麦11社、大麦・はだか麦5社、麦生産農協5JA、 農水省、関東農政局、米麦改良協会、全農本所、JAさいたま県中央会、全農埼玉県本部、 県生産振興課、農業技術センター(玉井試験場)、農産物安全課</p> <p>4 栽培暦の作成支援(7月)</p>		
活動の成果	<p>1 作付け面積はほぼ計画通り達成。</p> <p>2 収量は目標を達成できた。</p> <p>3 品質は適正タンパク質含量を確保した。</p> <p>4 基肥一発肥料は追肥体系並の効果があつた。</p>	<p>目標と達成度</p> <p>「さとのそら」への円滑な品種転換 4,040ha→4,755ha(117%)</p> <p>収量向上 実証ほ 450kg/10a→575kg/10(127%)</p> <p>タンパク質による品質向上 タンパク質含量 9.7%→9.7%(100%)</p>
データまたは写真	<p>今後の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低価格な新資材の検討 ・「さとのそら」を中心に需要に応じた小麦の品種別作付を推進 	
 <p>小麦検討会</p>		



テーマ	2 新品種によるサトイモ産地の活性化	
担当者名	齋藤、赤羽	
活動内容	<p>サトイモ（八つ頭）の新品種として選抜・固定された丸系八つ頭の栽培技術の確立、優良種苗供給体制の確立、親芋貯蔵技術について実証を行い、新品種の生産安定を推進、丸系八つ頭産地の育成を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 各地域に応じた栽培技術の組み立て実証 さいたま農林、大里農林と連携し、丸系八つ頭実証ほを2か所設置し、現地検討会、収量調査等を実施した。 貯蔵技術の実証 丸系八つ頭の種芋と親芋の冷蔵庫による貯蔵方法を検討した。 販促活動・PR活動への展開支援 成分分析による商品価値の向上、販促活動を進めるためのレシピ開発、講習会の開催 栽培面積の拡大 需要の拡大、地域での認知度向上、コンソーシアム活動を展開し、産地の拡大に向けた活動を展開した。大里農林、春日部農林と連携し新たな産地候補の掘り起こしを行った。 	
活動の成果	<ol style="list-style-type: none"> 各地域に応じた栽培技術の組み立て実証 緩効性肥料による施肥体系の技術組立を実証した。pF値の結果から、9月の乾燥が収量に大きく関係する結果が確認できた。 貯蔵技術の実証 子芋は種子消毒することにより8℃の冷蔵貯蔵が可能であることが確認できた。芋からの結露。親芋貯蔵は2月末までが貯蔵可能であった。芋からの水分による結露が腐敗の要因となっており、水分を吸収するための粉殻が必要である。3月中旬以降は腐敗率が高くなるため、上旬出庫が望ましい。 販促活動・PR活動への展開支援 県域の現地検討会を開催し、各産地間での技術等の情報交換を行い情報の共有化ができた。地元での販促活動を展開する上での、調理講習会の開催しレシピ開発、レシピ集を作成配布した。 栽培面積の拡大 既存の2産地に加え、新たに2産地に系統選抜増殖体制整備に向けた現地検討会を実施した。 市場出荷に加え、地元での販売、PR活動を展開し丸系八つ頭を利用したい飲食店を発掘した。また、コンソーシアムの育成に向けた活動により、「ふっかちゃん丸系八つ頭倶楽部」が結成された。各地でコンソーシアム形成され、生産者の生産拡大につながった。 	<p>目標と達成度</p> <p>栽培面積 2ha→2.25ha（112%）</p>
データまたは写真	 <p>レシピ開発のための調理講習会</p>	<p>今後の方向</p> <ol style="list-style-type: none"> 丸系八つ頭調整作業の省力化 販売期間の拡大と親芋貯蔵の実証 面積拡大に向けた栽培者の発掘 加工・業務用利用の検討 優良種苗の県増殖配布体制の整備


テーマ	3 なし、くりの貯蔵販売による産地活性化	
担当者名	片野、小野田	
活動内容	<p>1 なし冷蔵貯蔵</p> <p>なし「彩玉」の冷蔵貯蔵により、販売期間を延長し、彩玉のお彼岸需要に対応する。騎西梨選果場の彩玉をやや若どり、適熟の2種類を全農の冷蔵庫に約1か月貯蔵し、その後の果実品質を調査し、冷蔵貯蔵により販売できる果実かどうか検討した。その際鮮度保持フィルム2種類を試験に供した。</p> <p>冷蔵貯蔵により果実品質は保持され、外観、品質とも問題がないことが確認された。この結果を踏まえ、果実連の出荷反省会時調査結果を発表し、「彩玉」の貯蔵販売へ取り組むよう働きかけた。</p> <p>2 くりの貯蔵</p> <p>くりのクリシギゾウムシ対策として、農薬散布、温湯消毒、冷蔵貯蔵の方法があるが、産地としてどのような対策がとれるのか、JAいるまの日高支店、市役所、農林振興センターを交えて検討した(6月)。その結果、冷蔵貯蔵が最も産地にあった方法であることを確認し、生産者へ集荷方法、冷蔵手順、販売先への意向確認を行い、再度検討会を開催した(7月)。合わせて、品種更新する場合の早期成園化技術として、密植主幹形仕立てをせんだ講習会等で紹介した。</p>	
活動の成果	<p>1 なし「彩玉」を冷蔵貯蔵することにより、9月下旬まで出荷拡大できることが確認された。</p> <p>2 くりのクリシギゾウムシ対策と「ぼろたん」の品質向上のため冷蔵貯蔵が必要なことが理解され、各地で冷蔵貯蔵が行われた。</p> <p>密植主幹型栽培導入面積が70aとなった。</p>	<p>目標と達成度</p> <p>なし「彩玉」出荷拡大 8月下旬～9月下旬→8月下旬～9月下旬 (100%)</p> <p>くり冷蔵貯蔵 1,250kg→1,500 (120%) JAいるま野栗部会 350kg→400kg(114%) 日高ぼろたん研究会 300kg→300kg(100%) 皆野栗組合 200kg→200kg (100%) 東松山 400kg→600kg (150%)</p> <p>くり主幹形仕立 70a→70a (100%)</p>
データまたは写真	<p>今後の方向</p> <p>1 全農、果実連を中心に、「彩玉」の冷蔵販売を市場、販売先にPRしてもらい、販売促進を図る。</p> <p>2 くりの冷蔵中の品質悪化の原因と対策を整理し、歩留まりの高い冷蔵技術を確立していく。</p>	


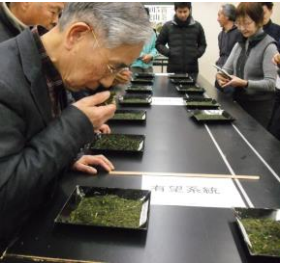




テーマ	4 新品種・新技術による花き産地の活性化（全域）																												
担当者名	小磯、井上																												
<p>芳香シクラメン等の品質の向上対策として、栽培管理に栄養診断技術を導入した生育管理指標を作成するために、収集したデータや生産者の栽培管理状況をもとに栽培管理基準案を作成し、栽培実証による生育状況等の調査を実施した。</p>																													
<p>活動内容</p>																													
<ol style="list-style-type: none"> 1 実証ほ設置農家の選定、調査項目・方法について打合せ（5月） 2 実証ほの設置（6/16 2か所）園芸品種と芳香シクラメン2品種の鉢底排出液の診断 3 実証ほの調査実施（6月～10月 15回） 診断項目：pH、EC、硝酸イオン、リン酸イオン、カリイオン、葉枚数、成品時調査 4 各地域における栄養診断に基づいたシクラメンの施肥管理指導 9か所 5 埼玉県シクラメン研究会で実証ほ生育状況の情報提供（7月～10月 3回） 6 芳香シクラメン栽培管理のポイント(マニュアル)配布および実証ほ調査結果報告（2月29日） 																													
<p>活動の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実証ほを設置して、園芸品種（シュトラウス）と芳香シクラメン2品種（香りの舞い、天女の舞）の生育期間中の鉢底排出液のデータを収集した。（2か所） 2 昨年度の実証ほ調査結果と栽培アンケート結果及び今年度の調査結果をもとに栽培管理のポイント（栽培マニュアル）を作成した。 	<p>目標と達成度</p> <p>新品種・新技術導入面積 0.5ha→1.5ha（300%）</p> <p>栽培管理マニュアルの作成（100%）</p>																												
<p>データまたは写真</p> <p>表1 芳香シクラメン成品時調査結果 実証ほ1：H氏（調査日：11月26日）</p> <table border="1" data-bbox="225 1249 815 1413"> <thead> <tr> <th>サンプル名</th> <th>草丈</th> <th>株幅</th> <th>開花数</th> <th>蕾数</th> <th>葉枚数</th> <th>サイズ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天女の舞</td> <td>22.3</td> <td>24.7</td> <td>5</td> <td>4.3</td> <td>67.3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>香りの舞い</td> <td>22.3</td> <td>24.3</td> <td>4</td> <td>3.3</td> <td>80.3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>シュトラウス</td> <td>28.3</td> <td>24.3</td> <td>13.7</td> <td>15.3</td> <td>102</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>  <p>写真1 左から「香りの舞い」「天女の舞」「シュトラウス」 芳香シクラメンは5号は鉢、シュトラウスは6号鉢 （平成27年10月26日撮影）</p>	サンプル名	草丈	株幅	開花数	蕾数	葉枚数	サイズ	天女の舞	22.3	24.7	5	4.3	67.3	5	香りの舞い	22.3	24.3	4	3.3	80.3	5	シュトラウス	28.3	24.3	13.7	15.3	102	6	<p>●芳香シクラメン栽培管理マニュアル</p>  <p>今後の方向</p> <p>栽培管理指標が作成できたが、生産者ごとに培養土の組成やかん水のタイミングが異なるので、指標をもとに個別に調整する必要がある。</p>
サンプル名	草丈	株幅	開花数	蕾数	葉枚数	サイズ																							
天女の舞	22.3	24.7	5	4.3	67.3	5																							
香りの舞い	22.3	24.3	4	3.3	80.3	5																							
シュトラウス	28.3	24.3	13.7	15.3	102	6																							


テーマ	5 高温に対応したユリ切花高品質栽培技術の実証・普及						
担当者名	小磯、井上						
<p>高温期のLAユリ切花栽培でヒートポンプを活用して夜間冷房を行うことで、花への高温障害軽減や日持ち性向上など品質改善効果について検討する。</p> <p>活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実証ほの設置農家の選定、調査項目・方法について（6月5日） 2 実証ほの設置 深谷市藤沢地区（確認区6月19日、慣行区6月21日） 供試品種：インディアンダイヤモンド（橙）及びシピオーネ（黄）球根サイズ14～16cm 面積：確認区、慣行区ともにパイプハウス231㎡ 使用機材：東芝社製ヒートポンプ「暖太郎」（夜冷用）、送風用に循環扇を併用。 温度管理：確認区は、19～5時までヒートポンプを20℃で設定。 夜冷期間は定植後3週間（7月10日まで）。施設内の降温や乾燥防止を目的に随時灌水を実施。 慣行区は、施設を開放する通常の管理を実施。 3 実証ほの調査実施（6～8月 8回） 調査項目：施設内の気温及び地温。草丈、根部重量、収穫時調査 4 ユリ部会における夜冷栽培における品質評価についての情報提供 10月6日 5 花きの品質改善研修会 3月11日 							
活動の成果				目標と達成度			
<ol style="list-style-type: none"> 1 夜冷効果については、試験時期が梅雨時期で雨が多く気温が上がらない時期であったため、区間の温度差は認められなかった（データ省略）。 2 収穫時調査については、確認区のほうが慣行区に比較し草丈は短く、蕾長は長くなり花首径は太くなった（表1）。花持ちについては差は認められなかった（写真1）。 				<p>前処理技術の効果確認 50品種→33品種（66%）</p> <p>前処理技術への取組 2人→0人（0%）</p>			
表1 収穫時調査結果（調査日：8月7日）							
品種名	区名	草丈	輪数	蕾長	株元径	花首長	花首径
		(cm)	(輪)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)
インディアンダイヤモンド	確認区	99.9	4.4	79	10.6	6.1	7.8
	慣行区	104	3.7	74.2	10.1	7.3	6.3
				<p>今後の方向</p> <p>今回の実証では、定植時期が涼温であったため、高温時の定植においてLAユリでの夜冷効果を再確認する必要がある。</p>			
写真1							
インディアンダイヤモンド（8月13日）左：確認区 右：慣行区							

テーマ	6 耕畜連携による飼料イネの生産利用と飼料作物の安定生産	
担当者名	大宅、渡辺	
<p>活動内容</p> <p>1 種畜生産研究チームと連携してWCS用高糖分イネの現地実証を行うとともに、農林振興センターと連携した巡回や研修会により、飼料用米・WCS専用高糖分稲の生産拡大を促した。</p> <p>2 生研センター、農林振興センター及び種畜生産研究チームと連携し、トウモロコシ高速不耕起播種機を活用したヘアリーベッチあとトウモロコシ及びトウモロコシ二期作の現地実証を行い、不耕起播種のトウモロコシ安定生産を検証した。</p>		
<p>活動の成果</p> <p>1 WCS用高糖分イネの現地実証により、収穫体系に合せた草丈制御技術の見通しが得られた。研修会等を通じて畜産農家の関心が高まり、種子の販売量も増えたことから、次年度は大幅に栽培面積が増える見込みとなった。</p> <p>2 生研センターが開発したトウモロコシ高速不耕起播種機により、5月28日播きヘアリーベッチあと及び8月3日播き二期作トウモロコシの実証を行った。いずれも初期の雑草の防除に課題を残したが、不耕起播種により埼玉県でも二期作が可能なが検証された。</p>	<p>目標と達成度</p> <p>新規需要米(飼料用米・WCS用稲)の利用面積拡大 450ha→496ha(110%)</p> <p>WCS用高糖分イネ(たちすずか等)栽培面積 4ha→4.5ha(113%) (平成28年度栽培予定面積20ha)</p> <p>トウモロコシ高速不耕起栽培播種面積 0.7ha→1.7ha(240%)</p>	
<p>データまたは写真</p>  <p>高糖分イネ研修会</p>  <p>トウモロコシ不耕起栽培現地検討会</p>	<p>今後の方向</p> <p>1 WCS用高糖分イネに関しては、縞葉枯病抵抗性を持つ新品種の早期普及に向けて、水田高度利用研究チームで栽培技術、水稻研究チームで採種技術の確立を行うとともに、種畜生産研究チームと革新支援担当は振興センターと連携して現地実証を行う。</p> <p>2 トウモロコシ不耕起栽培については、効果的な雑草防除体系の確立により収量を安定を図り、二期作による自給飼料拡大を図る。</p>	

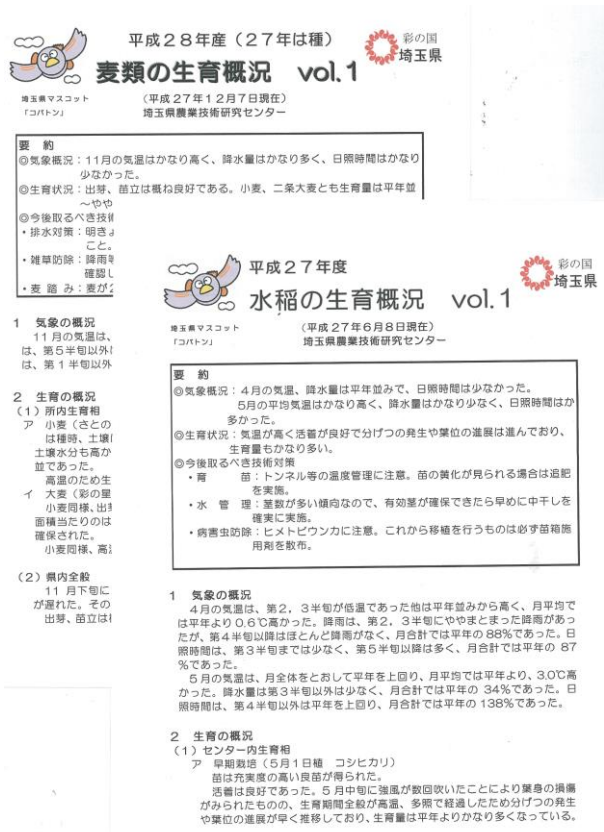
テーマ	7 経営シミュレーションの活用	
担当者名	本間	
活動内容	<p>1 営農計画策定支援システム「Z-BFM」を活用した農業経営体育成支援を行った。各農業支援部と連携し、現地における講習会の開催、経営相談における経営シミュレーションの活用を行った。</p> <p>2 農林振興センター、市町村及び農業協同組合と連携し、新たな農業経営指標の利用方法及び診断結果の活用について支援した。新規就農者や就農希望者への経営相談にZ-BFMの活用を推進した。</p> <p>3 農林振興センターと連携し、新規就農者対象の農業経営研修会を開催し、農業簿記の基礎、農業青色申告決算書作成の基礎、農業経営分析、農業経営シミュレーションの基礎を講習した。Z-BFMおよび新たな農業経営指標について機能及び活用方法を紹介した。</p>	
活動の成果	<p>1 経営シミュレーション研修会を開催し、普及指導員10人、農業者20人、農協営農指導員6人が参加した。</p> <p>2 新たな農業経営指標の活用研修会を開催し、普及指導員15人、市町村2人、農協営農指導員5人が参加した。</p> <p>3 主穀作、施設園芸、茶、畜産の経営調査を行い作目の変更や雇用導入効果について経営シミュレーションを実施した。</p> <p>4 経営シミュレーション基礎データの更新及び基準値の作成を行った。</p>	<p>目標と達成度</p> <p>経営シミュレーションの実施 20経営体→20経営体（100%）</p>
データまたは写真	 <p>農業経営研修会</p>	<p>今後の方向</p> <p>農業経営改善を支援し、将来の経営設計の樹立を支援するため、認定農業者、農業法人、集落営農集団等への経営支援に活用する。</p>

テーマ	8 狭山茶の生産安定	
担当者名	田中(江)	
活動内容	<p>1 IPMによるクワシロカイガラムシ防除技術の導入による被害軽減</p> <p>(1) H26年末に設置したナギナタガヤ植栽茶園の天敵の生育状況を確認し、今年の秋まきの推進を行った。</p> <p>(2) 米ぬか懸濁液の散布ほ場（6月散布）の防除効果を検討し、入間・狭山・所沢（2地区）・日高・飯能に温度計を設置して積算温度に基づく防除情報の発信を行った。</p> <p>(3) 防除適期判定会（相談会）を設け寄生枝の検鏡を通じて防除適期情報を提供した。</p> <p>2 県育成品種の普及</p> <p>(1) 県育成品種定植ほ場を巡回し、管理方法の指導を行った。</p> <p>(2) 茶苗木生産農家に対し遮光新資材を提供し、出荷率向上を図った。</p> <p>(3) 改植を希望している農家に対し、県育成品種の導入を推進した。</p> <p>(4) 新品種の求評会を行い、コンソーシアムの形成に向けた話し合いを行った。</p>	
活動の成果	<p>1 積算温度による防除適期予測を基に防除情報を作成・発信し適期防除を励行した。（5, 7, 9月）</p> <p>2 ナギナタガヤ植栽茶園で天敵の発生状況を確認し、米ぬか散布ほ場の効果を確認した。</p> <p>3 育苗農家の巡回指導を行い、夏の管理や冬越しの指導を行い、出荷苗の品質が向上した。</p> <p>4 昨年行った品種、改植・新植についてのアンケート結果を茶業研究所の成果発表会で発表した。また新品種の求評会を行い、コンソーシアムの形成に向けた話し合いを行った。</p>	<p>目標と達成度</p> <p>天敵利用技術の確立 2 技術→2 技術（100%）</p> <p>防除情報に基づいた適期防除実施数 200回→200回（100%）</p> <p>「おくはるか」定植面積 2ha→2ha（100%）</p> <p>遮光新資材での挿し木本数 20,000本→20,000本（100%）</p> <p>新たな県育成品種導入面積 5ha→5ha（100%）</p>
データまたは写真	 <p>苗木生産ほ場</p>  <p>ナギナタガヤ草地帯</p>  <p>求評会</p>  <p>求評会</p>	<p>今後の方向</p> <p>1 クワシロカイガラムシ被害軽減のため、天敵利用技術のさらなる普及を図るとともに、プルート MC 散布茶園の拡大にあたり適切な防除指導を行う。</p> <p>2 県育成品種の普及のためのコンソーシアムの設置・運営</p>

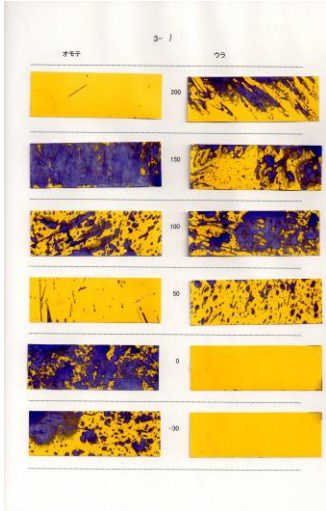
テーマ	9 狭山茶の輸出に向けた活動支援	
担当者名	田中(江)、佐々木	
活動内容	<p>1 狭山茶の残留農薬の現状調査 生産農家の使用農薬の聞き取り調査を行い、農薬の使用実態を把握した。</p> <p>2 輸出先国別防除体系の確立 (独法)野茶研の実施した残留農薬調査の結果をもとに米国、台湾、香港向け狭山茶産地向けマニュアルを作成する。</p> <p>3 I P Mの考え方に基づいた農薬使用量の削減指導 I P M実証ほを設け、農薬使用量削減技術の確立を図る。</p> <p>4 輸出に取り組む生産者グループの組織化・活動支援 輸出に取り組む1グループの法人化を支援し、輸出に向く新商品開発を検討した。</p>	
活動の成果	<p>1 ハマキガ類の防除技術としてLEDランプとハマキコンロープの実証ほを設置した。LEDランプの黄色光照射はチャノホソガに有効であった。またハマキコンロープによりハマキガ類の第2世代の被害の発生を抑制することができた。</p> <p>2 生産者向けの研修会で(独法)野茶研による輸出向け残留農薬調査結果の報告を行った。 輸出に取り組む1グループは法人化した。新たに茶業青年団のプロジェクトメンバーにより、モンゴルへの輸出を検討することになった。</p>	<p>目標と達成度</p> <p>残留農薬実態調査数 20点→0点 (0%)</p> <p>国別マニュアルの作成 3か国→3か国 (100%)</p> <p>I P M実施ほ設置数 2か所→2か所 (100%)</p> <p>害虫抵抗性品種への改植 5戸→5戸 (100%)</p> <p>輸出に取り組む生産者グループ 2グループ→3グループ (150%)</p>
データまたは写真	 <p>LEDランプによる防除</p>  <p>輸出向け新商品ドリップ型深蒸し茶</p>	<p>今後の方向</p> <p>さらなる I P M技術の検討を行い、輸出向け新商品の開発を支援する。また、輸出向けパッケージを検討する。</p>

テーマ	10 経営ビジョン策定とネットワーク構築による経営強化と収益力向上	
担当者名	河野(律)、河野(悟)	
活動内容	<p>1 各農振振興センター主催による経営ビジョン（農業の6次産業化事業計画書）策定に関する講義を実施した後、経営実務研修「基礎編」として経営ビジョンの策定研修を実施した。加えて経営タイプ別の経営実務研修として、「加工技能高度化研修」「機能性表示・食品表示研修」「商談能力向上研修」を実施した。さらに、人材育成研修として、「農商工連携・6次産業化と地域振興」を実施した。</p> <p>2 ネットワーク構築による業績向上の支援として、県内全域を対象としたテーマ別6次産業化研究会を実施するとともに、地区別6次産業化研究会の支援を行った。</p> <p>3 六次産業化・地産地消法に基づく事業計画の認定の支援を行った。</p> <p>4 6次産業化による商品の販路拡大のため、「埼玉県農商工連携フェア」「6次産業化PR会」を開催した。</p>	
活動の成果	<p>1 各農振振興センター主催による経営ビジョン策定に関する講義を実施した結果、経営ビジョンに取り組む農業者の掘り起こしができた。経営実務研修について、「加工技能高度化研修」は3回開催し延べ67名が参加、「機能性表示・食品表示研修」を開催し22名が参加、「商談能力向上研修」は農商工連携フェア・6次産業化PR会の参加者を中心に17名が参加した。人材育成研修にとして、「農商工連携・6次産業化と地域振興」を4回開催し91名が参加した。</p> <p>2 テーマ別6次産業化研究会は、128名の会員で5会合を実施した結果、農業者と商工業者等によるネットワークの構築が図られた。</p> <p>3 六次産業化・地産地消法に基づく事業計画書の策定支援を5経営体に対して実施し、3経営体が認定を受けた。</p> <p>4 埼玉県農商工連携フェアと同時に開催した農業の6次産業化商品PR会等により販路開拓を図った。</p>	<p>目標と達成度</p> <p>商品開発数 100品目→331品目（331%）</p> <p>重点支援12経営体の売上高 2億円→2億円（100%）</p> <p>経営ビジョンの策定件数 66件→52件（79%）</p> <p>総合化事業計画策定支援 10件→9件（90%） （うち、総合化事業計画認定6件）</p>
	<p>今後の方向</p> <p>今後とも、各農林振興センター農業支援部の6次産業化担当と連携して経営ビジョンの策定及び策定後の取組を支援する。</p>	

(2) 新たな技術の現地実証・普及

<p>テーマ</p>	<p>1 水稲、麦の生育状況の情報提供</p>
<p>担当者名</p>	<p>田中(克)、松本</p>
<p>活動内容</p> <p>水稲と麦類の生育概況について、水田高度利用研究チームと連携しセンター内で得られた生育相調査のデータと県内現地状況及び技術対策をまとめ定期報告を行う。</p>	
<p>活動の成果</p> <p>水田高度利用研究チームと連携により、定期報告内容を作成し、HPやFBにより情報配信することができた。</p>	<p>(計数化できる事項)</p> <p>水稲の生育概況 4回発行 (6、7、8、9月)</p> <p>麦類の生育概況 6回発行 (4、5、12、1、2、3月)</p>
<p>データまたは写真</p>  <p>水稲・麦類の生育概況</p>	<p>今後の方向</p> <p>今後も継続していく。</p>


テーマ	2 いちご新品種の現地適応性評価及び生産安定対策技術支援	
担当者名	齋藤、赤羽	
<p>活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 農林総合研究センター園芸研究所で育成を進めている新品種（新系統：2系統）の現地適応性を確認するため、現地適応性試験ほを県内13カ所（秩父、大里、春日部管内）に設置し、現地適応性評価に向けた調査等を支援した。 2 萎黄病、炭そ病対策の徹底による良質苗確保に向けた育苗管理技術の改善について、農林振興センターと連携して現地での生産安定対策を支援した。 3 養液いちご研究会を対象にした研修会で、昨年度の新品種の現地適性試験の結果、いちごの育苗ほの管理、省エネ技術、新規の防除技術について示すとともに、現地巡回及び現地検討会において、高設栽培における生産安定対策の支援を図った。 4 埼玉いちご連絡協議会生産者を対象に栽培講習会等により、昨年度の新品種の現地適性試験の結果示すとともに、取引協議会等を通じ、販売対策について支援した。 		
<p>活動の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 育成中新品種の現地適応性を確認するため、苗生産、栽培方式が異なる地域での現地試験ほの設置を支援し、現地適応性を現在も確認中。品種登録申請を行なう予定。 2 秋期の気温が比較的低温に推移したため、花芽分化は順調で、萎黄病、炭そ病の発病は、一部で見られたが、全体的には低密度となった。 3 ハダニ対策で高濃度炭酸ガス処理について、認識が深まるとともに、導入・実証が行われた。ハダニ類の発生は、年内は抑えられ、薬剤散布の削減、薬剤感受性の低下を防ぐことができた。 	<p>(計数化できる事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現地適応性評価ほ設置 13カ所（熊谷市、越谷市、秩父市） 品種登録 2系統を品種登録することになった。 2 萎黄病、炭そ病の発生状況は低密度となった。 3 高濃度炭酸ガス処理の導入・実証 5カ所 川越管内1、本庄管内1、秩父管内3 	
<p>データまたは写真</p> <div data-bbox="215 1395 842 1630"> </div> <p data-bbox="304 1641 743 1675">現地適応性評価実証ほ（高設栽培）</p> <div data-bbox="215 1709 842 1951"> </div> <p data-bbox="295 1962 735 1995">現地適応性評価実証ほ（土耕栽培）</p>	<p>今後の方向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新品種の定着・普及を図るため、現地適応性評価、栽培のポイントの把握等の継続的支援を行う。 2 省力的な良質苗確保対策技術、総合的防除（IPM）技術の普及、定着による生産安定対策支援を行う。 3 高濃度炭酸ガス処理技術の低コスト化、効率化技術の確立を図る。 4 観光摘み取り等販売対策、6次産業化支援を行う。 5 産地の振興方針、販売方向に合わせた導入品種の選定支援及び品種特性を踏まえた生産安定技術支援を行う。 	


テーマ	3 なしスプリンクラー防除技術の確立					
担当者名	片野、小野田					
活動内容	<p>防除効果を確認するため、農業技術研究センター病害虫担当と連携し、現地での病害虫発生状況や農薬のかかり具合の調査を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スプリンクラー設置区における病害虫の発生状況調査 (担当農家が病気となったため、6月までの防除となってしまった) 2 かん水紙を使った農薬の付着量調査 					
活動の成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 病害虫発生状況 6月までの病害虫の発生状況は、SS区と比べ差は無いようであった。 2 農薬の被曝量 かん水紙による農薬の付着状況は、あまりよくない状況であり、ヘッドの数を増やす等の対応が必要である。 	<p>(計数化できる事項)</p> <p>病害虫の発生状況 6月11日(最終防除時期)</p> <p>ハダニの発生状況</p> <table border="1"> <tr> <td>スプリンクラー区</td> <td>SS区</td> </tr> <tr> <td>8%</td> <td>11%</td> </tr> </table>	スプリンクラー区	SS区	8%	11%
スプリンクラー区	SS区					
8%	11%					
データまたは写真	 <p>かん水紙による付着量調査</p>	<p>今後の方向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スプリンクラーの防除方法を試験研究と連携し、確立していく。 2 農薬の残留調査を行う。 3 スプリンクラー防除に併せたせん定方法の検討。 				
	 <p>スプリンクラー防除のノズル</p>					

テーマ	4 なし「あきづき」の果肉崩壊症対策技術について																																																										
担当者名	片野																																																										
活動内容	<p>被害軽減技術を確認するため、農業技術研究センター高度利用・生産性向上担当果樹研究と連携し、平成23年にコルク状障害が多発した久喜市菖蒲町と白岡市のなし園で、次のとおり調査を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 調査ほ場の設計、農家への依頼 2 カルシウム剤と硫酸マグネシウム剤を施肥、葉面散布剤の提供 3 コルク状果肉障害発生調査（久喜市菖蒲町、白岡市、神川町 3ほ場） 4 調査結果のまとめ 																																																										
活動の成果	<p>(計数化できる事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 施肥効果 3.6%→6.6% 																																																										
<p>1 白岡市</p> <p>Ca剤液肥散布と無処理区の差は、見られなかった。もともと少発生の樹では、少ない傾向であった。</p> <p>2 久喜市</p> <p>無処理樹の発生平均6.6%に対して、処理区では、3.6%となり、カルシウム、マグネシウム剤の施肥効果がみられた。</p>																																																											
<p>データまたは写真</p> <p>調査ほ場の果肉障害発生調査結果</p> <p>図1 白岡市S氏ほ場の「あきづき」凹症状発生状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>着果数</th> <th>凹数</th> <th>発生割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無処理</td> <td>233</td> <td>36</td> <td>15.5%</td> </tr> <tr> <td>Ca剤散布区①</td> <td>326</td> <td>58</td> <td>17.8%</td> </tr> <tr> <td>Ca剤散布区②</td> <td>340</td> <td>42</td> <td>12.4%</td> </tr> <tr> <td>少発生樹①</td> <td>81</td> <td>10</td> <td>12.3%</td> </tr> <tr> <td>少発生樹②</td> <td>55</td> <td>1</td> <td>1.8%</td> </tr> <tr> <td>少発生樹③</td> <td>128</td> <td>13</td> <td>10.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>図2 久喜市菖蒲H氏ほ場の「あきづき」凹症状発生状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>着果数</th> <th>凹数</th> <th>発生率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無処理樹①</td> <td>186</td> <td>20</td> <td>10.8%</td> </tr> <tr> <td>無処理樹②</td> <td>193</td> <td>13</td> <td>6.7%</td> </tr> <tr> <td>無処理樹③</td> <td>174</td> <td>4</td> <td>2.3%</td> </tr> <tr> <td>処理樹①</td> <td>202</td> <td>11</td> <td>5.4%</td> </tr> <tr> <td>処理樹②</td> <td>210</td> <td>6</td> <td>2.9%</td> </tr> <tr> <td>処理樹③</td> <td>168</td> <td>4</td> <td>2.4%</td> </tr> </tbody> </table>		着果数	凹数	発生割合(%)	無処理	233	36	15.5%	Ca剤散布区①	326	58	17.8%	Ca剤散布区②	340	42	12.4%	少発生樹①	81	10	12.3%	少発生樹②	55	1	1.8%	少発生樹③	128	13	10.2%		着果数	凹数	発生率	無処理樹①	186	20	10.8%	無処理樹②	193	13	6.7%	無処理樹③	174	4	2.3%	処理樹①	202	11	5.4%	処理樹②	210	6	2.9%	処理樹③	168	4	2.4%	<p>今後の方向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 久喜市菖蒲町の液肥試験ほ場では、引き続きカルシウム剤の施用を行う予定である。 2 白岡市では、多発生ほ場において、葉面散布でなく、土壌処理を行い改善されるか検討する。 		
	着果数	凹数	発生割合(%)																																																								
無処理	233	36	15.5%																																																								
Ca剤散布区①	326	58	17.8%																																																								
Ca剤散布区②	340	42	12.4%																																																								
少発生樹①	81	10	12.3%																																																								
少発生樹②	55	1	1.8%																																																								
少発生樹③	128	13	10.2%																																																								
	着果数	凹数	発生率																																																								
無処理樹①	186	20	10.8%																																																								
無処理樹②	193	13	6.7%																																																								
無処理樹③	174	4	2.3%																																																								
処理樹①	202	11	5.4%																																																								
処理樹②	210	6	2.9%																																																								
処理樹③	168	4	2.4%																																																								

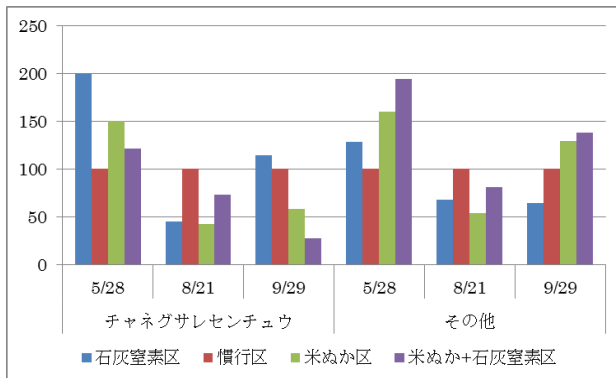
テーマ	5 地域特産果樹の生産安定 (ユズかいよう性虎斑症の被害軽減技術の開発)	
担当者名	片野	
<p>活動内容</p> <p>1 被害軽減技術の確認 関係機関による本年度活動打ち合わせ 昨年の試験結果について毛呂山支部に報告。接ぎ木苗の栽培への協力依頼を実施。 越生町産業観光課農林担当と接ぎ木苗の栽培支援体制の確立について検討。 袋かけ試験(毛呂山町大野園)で実施。</p> <p>2 優良樹の植え付け 優良系統6系統の穂木を入手。</p>		
<p>活動の成果</p> <p>1 被害軽減技術の確認 袋かけによる軽減技術の試験を実施し、黒色袋の効果が高いことを確認した。</p> <p>2 優良樹の植え付け 各系統10~15本の苗木を植付できた。</p>	<p>(計数化できる事項)</p> <p>1 被害軽減技術の確認 虎斑症数 6.7個/果→2.9個/果</p> <p>2 優良樹の植え付け 優良樹植付 6系統</p>	
<p>データまたは写真</p> <div data-bbox="209 1296 612 1599" data-label="Image"> </div> <p>袋かけ (果面がきれい (左))</p> <div data-bbox="209 1655 612 1957" data-label="Image"> </div> <p>袋かけ (カイガラムシに寄生された)</p>	<p>今後の方向</p> <p>1 被害軽減技術の確認 効果的・的な袋かけ時期の検討を行う。 カイガラムシ対策</p> <p>2 優良樹の育成 幼木期に必要な適切な管理を行い、育成を図る。</p> <div data-bbox="624 1012 847 1447" data-label="Image"> </div> <p>優良樹の植え付け (獣害保護ネット)</p>	

テーマ	6 新品種・新技術による花き産地の活性化（全域）	
担当者名	小磯、井上	
<p>芳香シクラメンの開花調節などの技術組立による品質向上を目指し①育苗期に亜リン酸資材を添加し、芽点数の増加への影響を検討②培養土にリン酸を添加し生育・開花数への影響を検討するために実証ほを設置し調査した。</p> <p>活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実証ほ設置農家の選定、検討品種・内容の打ち合わせ。（4月） 2 実証ほの設置（6/16 2か所） 実証内容 ①育苗期の亜リン酸資材の添加による芽点数への影響 ②鉢用土へリン酸添加による生育、開花数の影響（46重焼燐を鉢用土に添加） 供試品種：絹の舞、みやびの舞 処理方法：①本葉展開時に亜リン酸を添加する（1/26 4g/ℓ 散粒） ②鉢上げ時に培養土に46重焼燐（CP46 WP30を添加する）添加（6/4 6g/ℓ） 1区 無処理 2区 培養土にリン酸添加 3区 亜リン酸添加 4区 亜リン酸添加+培養土にリン酸添加 3 実証ほの調査実施（6月～10月 15回） 4 埼玉県シクラメン研究会で実証ほ生育状況の情報提供（7月～10月 3回） 5 芳香シクラメン実証ほ調査結果の報告（2月29日） 		
<p>活動の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 育苗期における亜リン酸の添加による芽点数への増加は認められなかった。（データ省略） 2 鉢上げ培養土へリン酸酸肥料を添加すると、開花数や芽点数の増加に影響する可能性がある（図1・2）。 	<p>（計数化できる事項）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鉢上げ用土にリン酸を6g/ℓ 添加すると芽点が増加する。 	
<p>データまたは写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="199 1283 534 1597"> <p>花 調査時の開花数:絹の舞</p> </div> <div data-bbox="545 1283 880 1597"> <p>個 芽点数の違い:絹の舞</p> </div> </div> <p>図1 リン酸資材の添加による開花数への影響</p> <p>図2 リン酸資材の添加による芽点数への影響</p> <div data-bbox="204 1697 874 1944"> </div> <p>写真1 平成27年11月24日 成品時の様子「絹の舞」 （左から1区、2区、3区、4区）</p>	<p>今後の方向</p> <p>育苗期の亜リン酸の添加による芽点数への影響について再検討する必要がある。</p>	

テーマ	7 切り花の日持ち性向上について	
担当者名	井上、小磯	
活動内容	<p>深谷市は国内でも有数のチューリップ切花産地であるが、切花品種の多様化による需要減や単価の低迷など産地を取り巻く情勢は厳しさを増している。チューリップでは日持ちが悪いイメージがあり、消費が減少傾向にある。日持ち性向上対策技術については、オランダや国内の先進産地で前処理剤技術の活用による有利販売が行われている。そこで、昨年に引き続き、前処理剤を利用したチューリップ切花の日持ち性改善効果の確認を行うとともに、生産者へ販売に向けた意識づけを行い、次年度以降への販売につなげる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 打合せ 実証ほ設置について（9、12月） 2 実証ほ設置 半促成栽培（2～3月 3回） 3 調査 <ol style="list-style-type: none"> （1）実証試験の実施 半促成栽培（2～3月） （2）品質保証販売の取組調査（㈱ヤオコー本社 2月4日） （3）先進地事例調査（新潟県新津市 3月1日） 4 検討会 <ol style="list-style-type: none"> （1）効果検討（生産者、資材メーカー 6月15日、12月2日、2月27日 3回） （2）花きの品質改善研修会（生産者、JA、関係機関等 3月11日） 5 試験研究機関との連携 <p>県農業技術研究センターでの日持ち性向上試験（2～3月）</p> 	
活動の成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 昨年の試験をもとに、処理時間・濃度は200倍液・1時間処理で、花首の伸びの抑制や日持ち性改善効果について確認できた。 2 花き業界全体で取り組むべき日持ち性向上対策について、切り花生産者に求められる品質管理等の意識づけができた。 	<p>（計数化できる事項）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対策モデルの作成 1モデル 2 日持ち性向上技術への取組 0→2組織 2組織
データまたは写真		<p>今後の方向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前処理剤技術の導入をさらに推進する。 2 有利販売につながるよう、市場、小売りとの連携を図る。
	花きの品質改善研修会（3月11日開催）	

テーマ	8 WCS用高糖分解消化性イネ等の水田を活用した高栄養生産に適した品種の選定及びその利用技術の開発																																			
担当者名	大宅、渡辺																																			
活動内容	<p>1 種畜生産チームと連携して、WCS用高糖分解イネ晩生品種「たちすずか」の田植期による草丈・収量に関する現地実証を行った。</p> <p>2 農林振興センターと連携した巡回や研修会により、飼料用米・WCS専用高糖分解稲の生産拡大を促した。</p>																																			
活動の成果	<p>1 「たちすずか」の田植期と草丈について現地実証し、収穫体系に合せた草丈制御技術の見通しが得られた。</p> <p>2 研修会等を通じて畜産農家の関心が高まり、種子の販売量も増えたことから、次年度は大幅に栽培面積が増える見込みとなった。</p>	<p>(計数化できる事項)</p> <p>WCS用高糖分解イネ(たちすずか等)栽培面積 1.25ha→4.5ha (平成28年度栽培予定面積20ha)</p>																																		
データまたは写真	<p>たちすずか実証は草丈・収量・サイレージ栄養価等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>田植期</th> <th>6月16日</th> <th>7月5日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥施用量</td> <td>3t/10a</td> <td>2t/10a</td> </tr> <tr> <td>基肥窒素施用量</td> <td>11.2kg/10a</td> <td>11.2kg/10a</td> </tr> <tr> <td>草丈</td> <td>173.8cm</td> <td>133.7cm</td> </tr> <tr> <td>乾物収量</td> <td>2,029kg/10a</td> <td>1,190kg/10a</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">D M 中</td> <td>TDN</td> <td>50%</td> <td>57%</td> </tr> <tr> <td>CP</td> <td>7.9%</td> <td>8.8%</td> </tr> <tr> <td>ADF</td> <td>40.8%</td> <td>36.8%</td> </tr> <tr> <td>NDF</td> <td>58.8%</td> <td>57.2%</td> </tr> <tr> <td>V-Score</td> <td>62.8</td> <td>85.4</td> </tr> <tr> <td>乾物TDN収量</td> <td>1,015kg/10a</td> <td>678kg/10a</td> </tr> </tbody> </table>	田植期	6月16日	7月5日	堆肥施用量	3t/10a	2t/10a	基肥窒素施用量	11.2kg/10a	11.2kg/10a	草丈	173.8cm	133.7cm	乾物収量	2,029kg/10a	1,190kg/10a	D M 中	TDN	50%	57%	CP	7.9%	8.8%	ADF	40.8%	36.8%	NDF	58.8%	57.2%	V-Score	62.8	85.4	乾物TDN収量	1,015kg/10a	678kg/10a	<p>今後の方向</p> <p>1 「たちすずか」は縞葉枯病罹病性で、米麦二毛作地帯ではヒメトビウンカ対策が必須となるため、箱施葉等による防除を推進する。</p> <p>2 縞葉枯病抵抗性を持つ新品種の早期普及に向け、水田高度利用研究チームで栽培技術、水稲研究チームで採種技術の確立を行うとともに、種畜生産研究チームと革新支援担当は農林振興センターと連携して現地実証を行う。</p>
田植期	6月16日	7月5日																																		
堆肥施用量	3t/10a	2t/10a																																		
基肥窒素施用量	11.2kg/10a	11.2kg/10a																																		
草丈	173.8cm	133.7cm																																		
乾物収量	2,029kg/10a	1,190kg/10a																																		
D M 中	TDN	50%	57%																																	
	CP	7.9%	8.8%																																	
	ADF	40.8%	36.8%																																	
	NDF	58.8%	57.2%																																	
V-Score	62.8	85.4																																		
乾物TDN収量	1,015kg/10a	678kg/10a																																		
																																				

テーマ	9 茶の有害センチュウ類の対策技術の確立	
担当者名	田中(江)	
活動内容	<p>有機物施用及び石灰窒素による有害センチュウ類の被害軽減</p> <p>慣行施肥と比較して米ぬかと石灰窒素の施用がセンチュウ密度及び茶の品質や生育へ及ぼす影響を調査した。</p>	
活動の成果	<p>1 米ぬか、石灰窒素をそれぞれ単体で施用するより併せて施用する方がネグサレセンチュウの抑制に効果があると思われた。</p> <p>2 さらに、米ぬかと石灰窒素を散布すると、その他の有用センチュウの増加が確認できた。</p>	<p>(計数化できる事項)</p> <p>米ぬか+石灰窒素区 チャネグサレセンチュウ数 慣行区を100%として28%に減少 慣行区 137.7頭 米ぬか+石灰窒素区 37.7頭 (9月調査)</p>
データまたは写真	<p>今後の方向</p> <p>1 年間施肥による茶樹への影響の確認 2 複数年のセンチュウ影響調査</p>	



(3) 農林振興センターの普及活動の支援

テーマ	1 水稲高温対策特別普及活動事業への支援	
担当者名	田中(克)、松本	
<p>活動内容</p> <p>1 暑さに負けない米づくりの推進</p> <p>近年、水稲生育期間の高温化傾向が顕著になっており、白未熟粒等の多発による米の品質低下が大きな問題となっている。そこで、水稲の高温障害対策のための、新たな栽培指針に基づく土づくり、適正な施肥、適正な水管理、適期刈取りの技術対策の周知徹底を図るとともに、関係機関と連携し、水利計画に応じた作付品種の誘導や作期の移動を図り、暑さに負けない米づくりの推進を図った（水稲高温対策特別普及活動事業）。</p> <p>(1) 現地実証試験の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術実証ほの設置 8 農業支援部 ・品種実証ほの設置 8 農業支援部 <p>(2) 農業者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術対策情報の発信（防災気象情報を活用した暑さに負けない米づくり他） 		
<p>活動の成果</p> <p>1 暑さに負けない米づくりの推進</p> <p>水稲高温対策特別普及活動事業を活用しながら、暑さに負けない米づくりの推進を支援し、移植時期を遅らせたり、葉色板の活用、穂肥診断等適切な穂肥の施用などを働きかけた結果、1等比率74%を確保できた。</p>		<p>(計数化できる事項)</p> <p>1 暑さに負けない米づくりの推進</p> <p>水稲うるち玄米 1等74%</p> <p>「彩のかがやき」 1等92%</p>
<p>データまたは写真</p>  <p style="text-align: center;">現地検討会</p>		<p>今後の方向</p> <p>暑さに負けない米づくりは今後も推進し基本技術の励行や高温登熟性の強い品種の導入をすすめていく。</p>

テーマ	2 野菜産地の強化、新技術の導入支援	
担当者名	齋藤、赤羽	
<p>活動内容</p> <p>農林振興センターと連携し、野菜産地の強化、新技術の導入に向けた普及活動を支援する。</p> <p>1 I P M技術導入による生産安定技術支援 きゅうりの難病害虫対策としてI P M防除技術を活用した生産安定技術を本庄、大里、加須の3センターを中心に実証ほの設置・調査を支援した。</p> <p>2 野菜産地の生産拡大支援 (1)養液いちご研究会の活動支援 視察研修会（山梨県 ミヨシ種苗）、勉強会、現地検討会の支援を行った。 (2)園芸ハウスの省エネ（暖房効率向上）技術導入支援 徳島県が新品種・新技術導入推進事業で取り組んだ低コストの暖房効率向上技術について紹介及び研修会の開催支援を行い、導入推進を図った。 (3)低濃度エタノールによる土壌還元作用による土壌消毒技術の導入支援 ミニトマトのセチュウ、土壌病害対策として検討し、実証ほの設置、検討会の支援を行った。</p> <p>3 新規導入品目の生産安定技術支援 丸系八つ頭の新規導入産地に対して、講習会、現地検討会等を行った。また、加工・業務用野菜の栽培者に対して、巡回指導の支援を行った。</p>		
<p>活動の成果</p> <p>1 地区研修会、現地検討会を通じて、効果が確認され、生産者やJ A担当者の関心が高まった。防虫ネット（e-Red）の導入が拡大、農林が出している害虫の発生情報が活用されている。</p> <p>2 研修会等の開催により、各技術に対して生産者の認識が深まった。個々の技術において導入が検討されている。</p> <p>3 巡回指導により、栽培技術に対して、生産者の認識が深まり、産地化に向け意識が高まった。</p>		<p>(計数化できる事項)</p> <p>1 I P M防除技術取り組み農家数 50戸 → 150戸</p> <p>2 (1)先進地視察研修会参加：50人、講習会参加：47人、現地検討会参加：50人 (2)研修会の開催：3農林10回 (3)実証ほ：2カ所</p> <p>3 新たな丸系八つ頭の産地候補：5カ所 (伊奈町、東松山町、ときがわ町、熊谷市、杉戸町)</p>
<p>データまたは写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="204 1485 491 1697">  <p>I P M実証ほ巡回</p> </div> <div data-bbox="547 1496 818 1697">  <p>埼玉研現地検討会</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="204 1765 491 1977">  <p>養液いちご研究会現地検討会</p> </div> <div data-bbox="523 1753 834 1966">  <p>低濃度エタノール技術実証</p> </div> </div>		<p>今後の方向</p> <p>1 各農林振興センターと連携し、I P M防除技術取り組みを面的広がりにする。</p> <p>2 導入効果の確認を行うとともに各農林振興センターと連携して、新技術の導入推進を図る。</p> <p>3 産地化を図るため、栽培者・販路の確保を支援する。</p>

テーマ	3 貯蔵販売等によるなし産地の活性化	
担当者名	片野、小野田	
活動内容	<p>1 彩玉の短期貯蔵技術の確立 全農埼玉の冷蔵庫に加須市騎西町の「彩玉」を約1か月間貯蔵し、果実品質を調査した。</p> <p>2 早期成園化技術導入者の栽培管理支援 昨年までになしのジョイント栽培等の早期成園化栽培に取り組んでいる生産者を巡回し、その管理方法について支援を行った。</p> <p>3 新品種（「甘太」、「彩玉」、「あきづき」等）の導入支援 各農業支援部と協力し、生産者に対し新品種の特性や作り方等の理解を進めるため、久喜試験場における彩玉の講習会の開催や県内全域にいる若手を中心とした組織に対し新品種導入推進を行った。</p>	
活動の成果	<p>1 冷蔵処理することにより、秋の彼岸である9月下旬までの短期貯蔵が可能であった。</p> <p>2 ジョイント仕立て導入者及び苗木育成者を中心に巡回支援を行った結果、早期成園化技が新たに1.5ha導入された。</p> <p>3 県内若手を中心に導入推進した結果、新品種が約2.5ha導入された。</p>	<p>(計数化できる事項)</p> <p>1 9月下旬までの貯蔵割合は冷蔵貯蔵(2℃)することではほぼ100%貯蔵可能であった。</p> <p>2 県内でジョイント仕立て栽培を行っている面積が現在約5haとなった。</p> <p>3 県内のなし栽培面積(約430ha)のうち約10%が彩玉と推定している。</p>
データまたは写真	 <p>冷蔵処理中の彩玉</p>  <p>冷蔵処理果実の品質調査</p>	<p>今後の方向</p> <p>1 なしの産地活性化のため、今後もひきつづき、早期成園化の導入及び新品種の導入に対する技術的な支援を行っていく。</p>

テーマ	4 クリ「ぼろたん」の普及	
担当者名	片野、小野田	
活動内容	<p>1 クリシギゾウムシ対策技術の確立</p> <p>(1) クリシギゾウムシ対策技術の確立</p> <p>JAいるま野と連携し、昨年実施した温湯処理では、手間がかかりすぎるため、冷蔵貯蔵で対応することに決め、使用できる冷蔵会社とうの情報提供を行った。皆野、東松山地域においても、ぼろたんの品質向上もあわせて冷蔵貯蔵を推進した。</p> <p>2 密植主幹形整枝方法による早期成園化の実証</p> <p>熊谷市内に、密植主幹形整枝方法の展示ほ（ぼろたん 30 本、対象品種利平 17 本）を設置し、施肥、灌水、誘引等を指導した。2 年目のせん定講習会を実施し（1/14）、ぼろたんの生産拡大及び同技術の普及を図った。東松山で主幹形仕立てを導入した。</p> <p>3 JAいるま野栗出荷協議会と連携し、「ぼろたん」をの取り扱い、販売方法について検討した。皆野栗組合では、目ぞろい会、せん定講習等を実施した。販売についてはイベント等で販売を実施した。</p>	
活動の成果	<p>1 クリシギゾウムシ防除対策として、冷蔵貯蔵に取り組むことができた。</p> <p>2 密植主幹形の実証ほで、管理、せん定方法を指導した。</p> <p>3 県内各クリ産地で、冷蔵貯蔵に取り組んだ。</p>	<p>(計数化できる事項)</p> <p>冷蔵貯蔵 JAいるま野栗部会 400kg 日高ぼろたん研究会 300kg 皆野栗組合 200kg、東松山 600kg。</p> <p>主幹形仕立 200 a</p>
データまたは写真	 <p>ぼろたんの黒変果調査</p>  <p>せん定指導</p>	<p>今後の方向</p> <p>1 ぼろたんの安定生産</p> <p>石鎚、正月を台木とすると黒変果の発生が少ない傾向が認められるため、引き続き調査を行う。</p> <p>2 クリシギゾウムシ対策技術の確立</p> <p>氷温貯蔵など効率的技術の効果確認を図る。</p> <p>3 くりの生産販売対策の強化</p> <p>氷温貯蔵後の販売チャネルの拡大を図り、高食味のクリ販売を行い、ブランド化を推進する。</p>

テーマ	5 地域特産果樹の生産安定	
担当者名	片野、小野田	
活動内容	<p>1 イチジク産地の拡大と生産安定（東松山） 東松山農業支援部では場巡回する中で、生産性の上がらない原因を排水対策不良と果樹栽培に対する知識不足からくる樹勢低下との判断から排水対策を進める。併せて、株枯病対策も実施した。</p> <p>2 選果強化によるいちじく高品質果実販売の推進（加須） 加須農業支援部と協力して結果枝間隔の拡大や選果基準の見直し等を行った。 また、株枯病の発生も多いことから抵抗性台木の導入を行った。</p> <p>3 ブドウ「ちちぶ山ルビー」の防除体系の確立 白色綿雪症状対策として、メーカーと相談し薬剤を選定し、ビオネクト、園芸ボルドーを組み入れた「平成 27 年ちちぶ山ルビー病害虫防除暦」を提示し、防除を行った。さらに換気扇を設置し、湿度を下げることにより防除効果を上げた。果柄部の枯れこみ症状について、病害虫担当に原因説明を依頼したが、不明であった。</p>	
活動の成果	<p>1～2 株枯病抵抗性品種（ブラックイスキア、ネグローネ）苗の配布による生産安定支援を行った。</p> <p>3 ちちぶ山ルビーの白色綿雪症状を抑えることができた。</p>	<p>(計数化できる事項)</p> <p>1～2 株枯病抵抗性の台木導入本数 ブラックイスキア 30本 ネグローネ 10本</p> <p>3 白色綿雪症状の発生率 0%</p>
データまたは写真	 <p>病害を抑えた秩父山ルビー</p>	<p>今後の方向</p> <p>1 東松山では、地下水位が高く樹勢が落ちていることから、地下水位を下げるのが重要である。</p> <p>2 加須では、株枯病による欠株が目立つ園もあり、株枯対策を行う。</p> <p>3 ちちぶ山ルビーに発生する果柄部の枯れこみについて、原因と対策を明らかにする。</p>


テーマ	6 主要花き産地の生産振興	
担当者名	小磯、井上	
活動内容	<p>県内の花き生産において、夏期の高温対策が求められている。今後、資材等の活用を推進できるデータ収集を目的に実証ほを設置し調査を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 夏期の細霧冷房の利用（7～8月） 2 夏期の遮熱塗料の利用（7～8月） 3 空気熱ヒートポンプのパット冷却を利用したコスト削減の検討（7～9月） 	
活動の成果	<p>（計数化できる事項）</p> <p>高温対策資料 3事例</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 細霧冷房及び遮熱塗料について、夏期にデータ収集を行い、今後、高温対策の資料として活用できるよう生産組織等を通じて情報提供を行った。 2 空気熱ヒートポンプのパット冷却について、夏期の消費電力を2～3割削減できることがわかった。
データまたは写真	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>2015年7月22日測定 パイプハウス単棟(深谷市)</p> <p>—ハウス外 —ハウス内(遮熱塗料) —ハウス内(慣行)</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>遮熱塗料の有無によるハウス内外気温の推移</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>空気熱ヒートポンプの省エネ対策 (パット冷却)</p> </div> </div>	
今後の方向	<p>県内の花き生産者に対して、高温対策について情報提供できるよう、引き続きデータの収集蓄積を行い、現場で活用できるようにする。</p>	

テーマ	7 自給飼料分析に基づく適切な飼料給与の推進及び肉用牛の育種価の啓発
担当者名	渡辺、大宅



活動内容

- 平成26年度の自給飼料分析実績を各農林振興センター農業支援部と引き継ぐほか、必要に応じて農家と普及指導員の連絡調整を支援し、農業支援部が主体的に27年度の自給飼料分析を推進する体制を整備した。
- 畜産担当普及指導員に育種価の説明をするとともに、推進対象農家について各農林振興センター農業支援部と共有し、地域的組織は農業支援部、県域的組織は革新支援担当と役割分担して和牛飼養農家の育種価の取り組みを推進した。

活動の成果	(計数化できる事項)
1 本年は分析件数が多い1月の分析日に降雪があり、被害調査等で分析点数が減少したが、農業支援部で分析推進していた平成24年度に近い分析点数が確保できた。	1 自給飼料分析件数 97件 (H24年度 116件)
2 新規に10戸の和牛飼養農家が育種価に取り組むことになり、対象農家にほぼ普及した。	2 育種価新規取組農家数 10戸


<p>データまたは写真</p> <p>月別自給飼料分析件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>9</th> <th>11</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>24</td> <td>8</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>23</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>26</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>16</td> <td>21</td> <td>15</td> <td>116</td> </tr> </tbody> </table>	月	6	7	9	11	1	2	計	H27	24	8	15	15	12	23	97	H24	26	20	18	16	21	15	116	<p>今後の方向</p> <ol style="list-style-type: none"> 足腰の強い安定した酪農経営のためには自給粗飼料が不可欠で、乳牛飼養農家は3年間で20%減少しているが、自給飼料作付農家割合は67%から72%と増加、作付面積も570haから590haと微増しており、今後もこの傾向は続くと思われる。自給飼料の有効活用に向け、分析結果に基づいた飼料設計を推進する。 ほとんどの和牛飼養農家が育種価に取り組むようになったため、今後はデータの活用法について支援する。
月	6	7	9	11	1	2	計																		
H27	24	8	15	15	12	23	97																		
H24	26	20	18	16	21	15	116																		
 <p>新乳酸菌現地実証WCSイネサイレージの調査</p>																									

テーマ	8 農業経営体の法人化推進	
担当者名	本間	
<p>活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法人化担当者会議において、各農林振興センターの農業経営法人化に向けた取り組みを検討し、課題及び対応方策等を支援した。 2 県主催の農業法人経営支援セミナー、農林振興センター主催の法人化推進大会、農業経営講座等の開催支援を行った。 3 農林振興センターの法人化相談会開催を支援し、法人組織形態や役員構成、資本構成等のアドバイスをを行った。 4 集落営農組織の法人化のため、法人形態、定款作成、役員構成、栽培計画、利益計画、作業計画等の支援を行った。 		
<p>活動の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法人化担当者会議は3回開催、農林公社法人化推進アドバイザーによる調査結果報告会を開催 2 法人化スペシャリストの支援による法人化相談が実施され、法人育成が図られた 3 法人化後間もない法人に対し、財務管理、労務管理、マーケティング等の法人経営管理を支援した。 	<p>計数化できる事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法人育成数 78法人 県全体の法人数 800法人 	
<p>データまたは写真</p>  <p>農業法人経営支援セミナー</p>	<p>今後の方向</p> <p>農林振興センター法人化担当者と連携し、経営体の経営理念、経営方針、将来方向に適合した、経営力の高い法人化を推進する。</p>	



テーマ	9 中山間地域の風土を活かした茶生産の推進	
担当者名	小川、佐々木	
活動内容	<p>1 緑茶用品種を活用した紅茶製造法の確立</p> <p>(1) 埼玉県育成品種の生産安定</p> <p>4/22、5/18、5/19 埼玉県育成品種「おくはるか」の越冬後の生育状況を確認、紅茶の試験製造に向けた肥培管理等を指導。</p> <p>(2) 紅茶品質の安定</p> <p>7/12 販売用紅茶品質の向上を目指し、仕上工程の見直しを行った。</p> <p>7/14 販売促進用サンプルとして紅茶一煎パックを製造した。</p> <p>11/25 紅茶品質の評価のため紅茶求評会に出品し、他の生産者の紅茶との比較を行った。</p> <p>2 新たな需要開拓</p> <p>(1) アグリフードEXPO出展</p> <p>8/18、19 東京ビッグサイトで開催された、アグリフードEXPOに秩父紅茶を出展し、バイヤーや実需者の評価を得た。</p>	
活動の成果	<p>1 緑茶用品種を活用した紅茶製造法の確立</p> <p>仕上げ工程の見直しを行い、篩分け、木茎除去により販売向け紅茶の品質向上が図られた。</p> <p>2 新たな需要開拓</p> <p>オーソドックス紅茶及びハーブ紅茶を出展し、個人レストラン等から一定の評価を得た。</p>	<p>(計数化できる事項)</p> <p>1 紅茶求評会</p> <p>出品点数 8点(全体57点)</p> <p>参加生産者数 8人(全体26人)</p> <p>2 アグリフードEXPO</p> <p>ブース来場者数 124人(社)</p> <p>商談件数 26件</p>
データまたは写真	 <p>紅茶求評会における品質検討</p>	<p>今後の方向</p> <p>1 紅茶の生産拡大</p> <p>茶業研究所と連携して、製茶機械(粗揉機等)の利用による萎凋・発酵条件の制御を行い、紅茶生産の安定を図る。</p> <p>2 新たな需要開拓</p> <p>ティーバッグ加工など商品力を高める販売形態を取り入れ、新たな需要を開拓する。</p>
	 <p>アグリフードEXPO 出展紅茶</p>	

テーマ	10 農業の6次産業化の取組の支援	
担当者名	河野(律)、河野(悟)	
活動内容	<p>1 地区相談会（各農林振興センター1回）として基本的な研修を実施した後、経営実務研修会として経営ビジョン（農業の6次産業化事業計画書）の策定研修を実施した。策定した農業者に対して各農林振興センターの要請に応じた支援を実施した。</p> <p>2 農林振興センターとともに、支援対象者の課題に対応した。</p> <p>3 六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の策定の支援を各農林振興センターとともに行った。</p>	
活動の成果	<p>1 地区相談会及び経営実務研修会を開催し、経営ビジョン策定及び策定後の取組の支援を行った結果、6次産業化事業体としての事業の方向付けが明確になった。</p> <p>2 支援対象者のニーズに対応した各種支援や埼玉モデル育成事業の経営体へのフォローアップを実施した結果、新商品の開発（平成27年度末331品目）や販路の開拓などにつながった。</p> <p>3 各農林振興センター農業支援部との連携により、六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画書の策定支援を5経営体を実施し、3経営体が認定（平成27年度）を受け、6次産業化事業体としての事業の方向付けが明確になった。</p> <p>また、各農林振興センター農業支援部との連携により認定経営体に対するフォローアップを実施したことで、計画の進捗確認及び軌道修正を行うことができた。</p>	<p>（計数化できる事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発数 （平成25年度から平成27年度末まで100品目） 平成27年度末331品目（見込） ・重点支援12経営体の売上高 （平成27年度末まで2億円） 平成26年度末2.1億円 ・経営ビジョンの策定件数 （平成26年度から平成28年度末まで100件） 平成27年度末52件（見込） ・総合化事業計画策定支援 （平成26年度から平成28年度末まで15件） 平成27年度末9件（見込） うち、総合化事業計画認定件数 平成27年度末6件（見込）
データまたは写真	 	<p>今後の方向</p> <p>今後とも、各農林振興センター農業支援部の6次産業化担当と連携して経営ビジョンの策定及び策定後の取組を支援する。</p>

(4) 先進的な農業者等からの高度かつ専門的な技術・経営相談

<p>テーマ</p>	<p>空冷ヒートポンプチラーを使用したイチゴのクラウン冷却による花芽分化時期の制御技術の確立</p>																																							
<p>担当者名</p>	<p>赤羽</p>																																							
<p>活動内容</p> <p>革新的技術実証研究事業（農業政策課）により、導入された空冷ヒートポンプチラーを活用したイチゴのクラウン冷却による花芽分化時期の制御を行うことで、生産安定、省エネルギー化を目的とした技術研究を支援した。</p> <p>大里農林振興センターと連携し、試験区設置や調査方法について、生産者、実施者と調整を行った。</p> <p>生育状況や収量調査について、巡回指導を行った。</p>																																								
<p>活動の成果</p> <p>ウイルスフリー苗の導入時期が遅れたため、子苗の発生が遅れた。そのため、予定したランナー数の確保ができず、ランナーの切り離し時期も遅れた。</p> <p>そのため、子苗の充実度が不十分であったが、冷却を行ったところ、株の充実を図ることができた。</p> <p>秋の気温が低く推移したため、全体的に花芽分化が早まったが、冷却を行った区では、花芽分化が早まった。</p> <p>この傾向は、育苗苗を定植した区でも同様の傾向となった。</p>	<p>計数化できる事項</p> <p>1 いちごクラウン冷却試験ほの設置</p> <p>0 → 1</p> <p>2 クラウン冷却による花芽分化促進</p> <table border="1" data-bbox="861 940 1396 1176"> <thead> <tr> <th></th> <th>クラウン冷却の有無</th> <th>9/8</th> <th>9/14</th> <th>9/18</th> <th>9/24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">紅ほっぺ</td> <td>冷却</td> <td>1, 1</td> <td>1, 2</td> <td>2, 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td>1, 1</td> <td>1, 1</td> <td>1, 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">章姫</td> <td>冷却</td> <td>2, 4</td> <td>4, 4</td> <td>5, 5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td>1, 1</td> <td>1, 3</td> <td>3, 4</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">紅ほっぺ(ポット苗)</td> <td>冷却</td> <td></td> <td>1, 2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td></td> <td>1, 1</td> <td>2, 3</td> <td>3, 5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※数字は花芽分化程度（2株ずつ） （1：未分化 2：肥厚期 3：分化期 4：花房分化期 5：がく片形成期）</p>		クラウン冷却の有無	9/8	9/14	9/18	9/24	紅ほっぺ	冷却	1, 1	1, 2	2, 2		なし	1, 1	1, 1	1, 2		章姫	冷却	2, 4	4, 4	5, 5		なし	1, 1	1, 3	3, 4		紅ほっぺ(ポット苗)	冷却		1, 2			なし		1, 1	2, 3	3, 5
	クラウン冷却の有無	9/8	9/14	9/18	9/24																																			
紅ほっぺ	冷却	1, 1	1, 2	2, 2																																				
	なし	1, 1	1, 1	1, 2																																				
章姫	冷却	2, 4	4, 4	5, 5																																				
	なし	1, 1	1, 3	3, 4																																				
紅ほっぺ(ポット苗)	冷却		1, 2																																					
	なし		1, 1	2, 3	3, 5																																			
<p>データまたは写真</p> <p><章姫></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○9/8 対照区 クラウン冷却区</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○12/9 対照区 クラウン冷却区</p>	<p>今後の方向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 春先のクラウン冷却効果の確認。 （生育の制御と果実品質） 2 次作のウイルス苗定植時期の前進と子苗の充実確保による効果の確認。 3 経済性の確認。 （普及の可能性の確認） 																																							


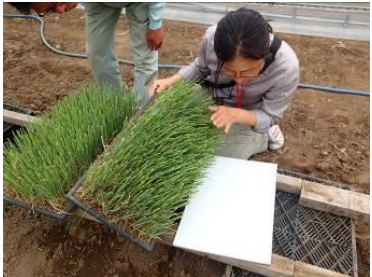
テーマ	2 ガスヒートポンプを利用し、高温に対応したユリ切花高品質栽培技術の確立と冬季燃油削減効果の実証																																																																																																													
担当者名	井上、小磯																																																																																																													
<p>革新的技術実証研究事業（農業政策課）により、導入されたガスヒートポンプを活用し、LAユリ栽培における①高温期の夜冷による花飛び・奇形化の発生軽減や草姿の品質向上②暖房による燃油削減効果の確認及び切花の品質評価を目的とした技術研究を支援した。</p> <p>活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大里農林振興センターと試験区設置や調査方法について打ち合わせ 生産者、実施者と調整を行った。（6月） 2 実証ほの設置：深谷市 LAユリ 3か所 （8月） 夜冷期間は定植後3週間19時から5時まで20℃を目標に冷房した。 3 実証ほの調査実施 （8月～11月） 発根量、草丈、成品時調査（草丈、重量、花飛び・奇形化の発生程度）、 日持ち試験はFAJに委託 																																																																																																														
活動の成果	<p>①夜冷処理により生育期間は長くなるものの、草丈が伸長し、蕾は大きくボリューム感は増加し品質が向上した。日持ちについては、慣行と差は認められなかった。</p> <p>②冬季暖房における燃油削減効果については、A重油の価格が下落したために上回ってしまった。</p>	<p>（計数化できる事項）</p> <p>①夜冷処理方法、目標温度 20℃設定の場合 処理時間 19時～5時 処理期間定植後 3～4週間</p> <p>②冬季暖房におけるガスヒートポンプの燃油削減効果は、A重油価格が 63 円/Lを上回ると有利。</p>																																																																																																												
データまたは写真	<p>表 1 処理区の設定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区</th> <th>A区</th> <th>B区</th> <th>C区</th> <th>D区</th> <th>E区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>処理日数</td> <td>3週間</td> <td>4週間</td> <td>5週間</td> <td>全期</td> <td>無処理</td> </tr> <tr> <td>植付日</td> <td>8月4日</td> <td>7月28日</td> <td>7月24日</td> <td>7月9日</td> <td>8月12日</td> </tr> <tr> <td>品種</td> <td>トリニティー</td> <td>トリニティー</td> <td>デジール</td> <td>トリニティー</td> <td>トリニティー</td> </tr> <tr> <td>生育期間</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>45</td> <td>43</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 2 夜冷期間と生育状況及び開花状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区</th> <th>収穫までの日数</th> <th>草丈 (cm)</th> <th>輪数 (輪)</th> <th>つぼみ長 (cm)</th> <th>枝長 (cm)</th> <th>株元の太さ (mm)</th> <th>花首長 (cm)</th> <th>花首径 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A区</td> <td>41日</td> <td>101.5</td> <td>6.2</td> <td>6.7</td> <td>4.3</td> <td>10.2</td> <td>7.2</td> <td>9.1</td> </tr> <tr> <td>B区</td> <td>41日</td> <td>103.8</td> <td>6.8</td> <td>7.4</td> <td>5.3</td> <td>10.2</td> <td>7.1</td> <td>8.6</td> </tr> <tr> <td>C区</td> <td>45日</td> <td>105.5</td> <td>6.4</td> <td>7</td> <td>7.5</td> <td>9.9</td> <td>8.9</td> <td>8.8</td> </tr> <tr> <td>D区</td> <td>43日</td> <td>105.7</td> <td>6</td> <td>5.5</td> <td>5</td> <td>10.8</td> <td>8.2</td> <td>8.7</td> </tr> <tr> <td>E区</td> <td>39日</td> <td>91.1</td> <td>6.2</td> <td>6.4</td> <td>3.7</td> <td>9.8</td> <td>6.2</td> <td>8.6</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区</th> <th>完全咲 (輪)</th> <th>不完全咲 (輪)</th> <th>未開花 (輪)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A区</td> <td>6.4</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>B区</td> <td>4</td> <td>1.6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>C区</td> <td>2.2</td> <td>1.2</td> <td>3.2</td> </tr> <tr> <td>D区</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>E区</td> <td>3.6</td> <td>1.8</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table>	区	A区	B区	C区	D区	E区	処理日数	3週間	4週間	5週間	全期	無処理	植付日	8月4日	7月28日	7月24日	7月9日	8月12日	品種	トリニティー	トリニティー	デジール	トリニティー	トリニティー	生育期間	41	41	45	43	39	区	収穫までの日数	草丈 (cm)	輪数 (輪)	つぼみ長 (cm)	枝長 (cm)	株元の太さ (mm)	花首長 (cm)	花首径 (mm)	A区	41日	101.5	6.2	6.7	4.3	10.2	7.2	9.1	B区	41日	103.8	6.8	7.4	5.3	10.2	7.1	8.6	C区	45日	105.5	6.4	7	7.5	9.9	8.9	8.8	D区	43日	105.7	6	5.5	5	10.8	8.2	8.7	E区	39日	91.1	6.2	6.4	3.7	9.8	6.2	8.6	区	完全咲 (輪)	不完全咲 (輪)	未開花 (輪)	A区	6.4	0	0	B区	4	1.6	1	C区	2.2	1.2	3.2	D区	3	2	1	E区	3.6	1.8	0.6	<p>今後の方向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンタル系ユリでの夜冷効果を確認する。 2 冬季暖房における年次変動の確認 3 経済性の再確認。 <p>（普及の可能性の確認）</p>
区	A区	B区	C区	D区	E区																																																																																																									
処理日数	3週間	4週間	5週間	全期	無処理																																																																																																									
植付日	8月4日	7月28日	7月24日	7月9日	8月12日																																																																																																									
品種	トリニティー	トリニティー	デジール	トリニティー	トリニティー																																																																																																									
生育期間	41	41	45	43	39																																																																																																									
区	収穫までの日数	草丈 (cm)	輪数 (輪)	つぼみ長 (cm)	枝長 (cm)	株元の太さ (mm)	花首長 (cm)	花首径 (mm)																																																																																																						
A区	41日	101.5	6.2	6.7	4.3	10.2	7.2	9.1																																																																																																						
B区	41日	103.8	6.8	7.4	5.3	10.2	7.1	8.6																																																																																																						
C区	45日	105.5	6.4	7	7.5	9.9	8.9	8.8																																																																																																						
D区	43日	105.7	6	5.5	5	10.8	8.2	8.7																																																																																																						
E区	39日	91.1	6.2	6.4	3.7	9.8	6.2	8.6																																																																																																						
区	完全咲 (輪)	不完全咲 (輪)	未開花 (輪)																																																																																																											
A区	6.4	0	0																																																																																																											
B区	4	1.6	1																																																																																																											
C区	2.2	1.2	3.2																																																																																																											
D区	3	2	1																																																																																																											
E区	3.6	1.8	0.6																																																																																																											

テーマ	3 GAP 認証取得に向けた茶生産者への支援	
担当者名	小川	
活動内容		
<p>1 入間くみあい製茶に対し、JGAP 認証取得に向けた支援を行った。</p> <p>(1) JGAP の管理点と適合基準に則った手順書並びに関係書類の作成を支援した。</p> <p>(2) 組合員に対しGAP の理解を促し、農薬の取り扱いを中心とした技術指導を行った。</p> <p>(3) 新規にくみあい製茶に加入しJGAP に取り組む生産者に対し、自己点検の援助を行った。</p> <p>2 所沢市茶業協会に対し、2020イベントに向けたGAP の取組みを支援した。</p> <p>(1) 協会員及び所沢市に対し、講習会を開催しGAP について理解を深めた。</p> <p>(2) 量販店対応等で工程管理を求められている農家に対し、GAP 導入の支援を行った。</p>		
<p>活動の成果</p> <p>入間くみあい製茶は、平成27年4月にJGAP 団体認証を取得した。</p> <p>入間くみあい製茶組合員(生葉生産農家)全戸に加え、二番茶の生葉を入間くみあい製茶に供給する製茶農家に対し、ほ場管理の指導を行い、管理状況の確認及び改善指導を行った。</p>	<p>(計数化できる事項)</p> <p>延べ支援日数 40日</p> <p>生葉生産管理指導 77戸</p> <p>JGAP 団体認証農場 1農場</p>	
<p>データまたは写真</p>  <p>写真1 製茶工場出入口の改善</p>  <p>写真2 Certificate of Registration (認証証明書)</p>	<p>今後の方向</p> <p>入間くみあい製茶に対し、追加で加盟する新規生産者への取組み、及び現在の認証更新に向け継続して取組みを支援する。</p> <p>入間くみあい製茶以外の第三者認証によるGAP の取組みを志向する生産者に対し援助を行う。</p>	

(5) 調査研究
ア 作物

課題名	縞葉枯病およびヒメトビウンカの発生と被害実態の調査
背景と目的	<p>本県において平成25年にイネ縞葉枯病媒介中であるヒメトビウンカの増加により本病が多発した。薬剤防除の減少とブランド品種の依存による品種の限定、媒介中の薬剤抵抗性の発達や温暖化の進行による発生世代数の増加などによって増大した。</p> <p>そこで、本病多発地域における媒介中の発生消長、保毒率の推移、発病株率、減収等を調査し媒介中防除のタイミング防除方法を検討する。</p>
協力機関	さいたま農林振興センター、加須農林振興センター
調査内容	<p>抵抗性品種地域における縞葉枯れ病及びヒメトビウンカの発生と被害実態の調査</p> <p>A地区：河川敷（雑草地）が近く以前から縞葉枯れ病が問題とされた地区 B地区：防除の徹底が見込まれるほ場として水稻採種ほ C地区：平成25年に黒すじ萎縮病含むが大発生し沈静化に至っていない地区</p>
調査結果	<p>1 発生調査結果</p> <p>(1) 各地域とも抵抗性品種「彩のかがやき」「彩のきずな」「夢あおば」の防除効果は高い。しかし、「彩のかがやき」「夢あおば」ではごくわずか発病が認められた。</p> <p>(2) 箱施薬+本田防除でもコシヒカリでは病株率30%以上の事例があった。抵抗性品種の「彩のかがやき」でもごく低率ながら発病が見られた。</p> <p>2 ヒメトビウンカ個体数調査結果</p> <p>地域または品種によって防除体系・薬剤が異なり単純な比較はできないが、次のような結果となった。</p> <p>(1) C地区の「彩のかがやき」で虫数が多い (2) A地区「コシヒカリ」で箱剤の残効切れる9月に急増 (3) B地区の「彩のかがやき」は8月に空散直後で少ないが9月上旬に急増</p> <p>3 ヒメトビウンカ保毒率</p> <p>(1) B・C地区における保毒虫率は6～7%で県平均4.8%より高かった。 (2) 両区とも9月上旬の捕獲虫数が700～1400頭と多かった。</p>
考察	<p>1 箱+本田による適切な防除を行っても感受性品種の発病を抑制しきれない事例があり地域としての感染圧が強いことを示唆される。</p> <p>2 抵抗性品種の「彩のかがやき」「彩のきずな」による発病抑制は高く実用性がきわめて高いことが示されたが、「彩のかがやき」ではごく低率ながら発病株が認められている。しかし、収量への影響など実害はない。</p>
担当者名	田中克典、松本（研究員：酒井、植竹）

イ 野菜

課題名	難防除害虫の薬剤抵抗性の検証	
背景と目的	<p>きゅうり、トマト、いちご等の果菜類、ねぎ等の葉菜類の難防除害虫（コナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類）について、地域的な差異を確認する。</p> <p>特にねぎ等で問題になっているネギアザミウマについては、登録農薬の減少への対応も含め、防除体系の基となる情報を把握する。</p>	
協力機関	農技研 生産環境・安全管理研究担当 病害虫防除技術研究 各農林 農業支援部	
調査内容	<p>1 栽培ほ場の発生状況調査、サンプリング</p> <p>(1) きゅうり：ミナミキイロアザミウマ(6/11、17、23、30、8/17) 7か所：大里、本庄、春日部、秩父</p> <p>(2) ねぎ：ネギアザミウマ (6/5～7/22) 20か所：さいたま、川越、大里、加須、本庄、春日部</p> <p>2 ミナミキイロアザミウマ：13剤（農技研調査）、ネギアザミウマ：24剤（各センターで調査、実施薬剤数は異なる）について、薬剤の感受性を死亡虫数で調査した。</p>	
調査結果	<p>1 発生状況調査</p> <p>(1) ミナミキイロアザミウマの量が少なく、大里、秩父の2ほ場では、試験が行えなかった。</p> <p>(2) サンプリング後に死亡する個体が多いなどで、再度サンプリングを行ったところがあった。</p> <p>2 薬剤感受性</p> <p>(1) 13剤に対する薬剤感受性が確認された。地域的な差が見られ、特にスピノサドの差が大きかった。</p> <p>(2) 24剤に対する薬剤感受性が確認された。同様の傾向が多いが、3剤で地域的な差が見られた。</p>	 
考察	<p>きゅうりのミナミキイロアザミウマの発生が低下した状態が多く、サンプリングが難しかった。また、アザミウマ類ではネギアザミウマの発生が多く、増殖も確認されたので、今後の被害について考察が必要である。</p> <p>ねぎのネギアザミウマは、発生量も多く、サンプリングは容易であったが、その後の保管状況等の試験方法について検討が必要である。全体的な傾向として、薬剤感受性の低下が確認され、IPM技術導入を推進して行く必要がある。</p>	
担当者名	齋藤、赤羽	

ウ 果樹

課題名	「彩玉」の中玉生産技術の実証																				
背景と目的	<p>県育成品種である「彩玉」は平均果重550gの大玉の品種であり、「みずみずしい甘さのジャンボ梨」として好評を得ている。贈答用としては「彩玉」の中でも大玉の果実の需要が多い。一方、「彩玉」の知名度が高まっていく中で、デイリーユースとしての需要も増加しており、生産現場からは家庭用として購入しやすい中玉果実の生産技術の要望がある。</p> <p>そこで、500～550g程度の「彩玉」の割合を高めるための摘果技術等を検討する。</p>																				
協力機関	農業技術研究センター高度利用・生産性向上担当 果樹研究																				
調査内容	<p>1 試験場所 久喜試験場内ナシ園</p> <p>2 供試材料 ニホンナシ「彩玉」(10年生高接ぎ樹)2本</p> <p>3 試験区 3区</p> <p>4 試験方法</p> <p>最終摘果を6月4日(1主枝)、6月27日(2主枝)に行い、6月4日と27日摘果(1主枝)について、摘果を側枝20cm当りに1果とし、27日摘果(1主枝)について側枝25cm当り1果とした。対照区は、最終摘果を6月5日、側枝25cm当り1果とした。</p> <p>各区の果実を適期収穫して、果実重、糖度を調査した。</p>																				
調査結果	<p>1 果実重は、対照区が600.4gであったものに対して、6月4日摘果区で531.9g、6月27日摘果区でそれぞれ511.5gと497.7gとなり、1階級小さな大きさとなった。</p> <p>2 糖度については、対照区12.6度に対して、6月4日摘果区が12.4と有意に低く、他の試験区との差はみられなかった。</p> <p>表1 摘果時期・摘果間隔を変えた「彩玉」の果重及び糖度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>調査果数</th> <th>平均果重(g)</th> <th>糖度(Brix)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6/4摘果(20cm/果)区</td> <td>144</td> <td>531.9 b</td> <td>12.2 c</td> </tr> <tr> <td>6/27摘果(20cm/果)区</td> <td>102</td> <td>511.5 b</td> <td>12.4 bc</td> </tr> <tr> <td>6/27摘果(25cm/果)区</td> <td>21</td> <td>497.7 b</td> <td>12.6 ab</td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>210</td> <td>600.4 a</td> <td>12.6 a</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">*:5%水準で異符号間に有意差あり</p>		調査果数	平均果重(g)	糖度(Brix)	6/4摘果(20cm/果)区	144	531.9 b	12.2 c	6/27摘果(20cm/果)区	102	511.5 b	12.4 bc	6/27摘果(25cm/果)区	21	497.7 b	12.6 ab	対照区	210	600.4 a	12.6 a
	調査果数	平均果重(g)	糖度(Brix)																		
6/4摘果(20cm/果)区	144	531.9 b	12.2 c																		
6/27摘果(20cm/果)区	102	511.5 b	12.4 bc																		
6/27摘果(25cm/果)区	21	497.7 b	12.6 ab																		
対照区	210	600.4 a	12.6 a																		
考察	<p>農技研の試験成果に基づく摘果基準は次のとおりである。</p> <p>(1) 最終着果数は5節に1果</p> <p>(2) 2次摘果で3節に1果程度に摘果し、被袋時期である6月中旬ごろまでに最終着果数に近い4～5節に1果まで摘果する。</p> <p>本調査では、6月27日に4果そうに1果に1果に摘果したので、農技研の基準よりも遅く摘果し、残す果実数も多くすることで、1階級下げることができた。糖度も有意に下がってしまうため、5果そうに1果にすれば、糖度も下げないことがわかった。</p>																				
担当者名	片野、小野田																				

エ 花植木

課題名	ヒートポンプの利用
背景と目的	省エネ及び環境対策を推進するため、ヒートポンプの種類別（EHP、GHP）の効率利用を推進するため、A重油暖房機との併用から高効率のヒートポンプ単独で冷暖房できる可能性や経済性について調査する。
協力機関	大里農林振興センター
調査内容	<p>1 熱源が異なる暖房機による省エネ効果の確認 調査品目：ユリ切花（実証面積1450㎡） 試験区：ガスヒートポンプ（熱源：プロパンガス） ＋加温機 慣行区：加温機（熱源：A重油） 加温設定温度：15℃</p> <p>2 パットの気化熱効果を利用して空冷式ヒートポンプの空気を冷却した際の省エネ効果の確認 調査品目：コショウラン鉢物（実証面積660㎡） 試験区：室外機にパッドを装着したヒートポンプ 慣行区：試験区と同機種ヒートポンプ 加温設定温度：開花室 昼25℃、夜16℃</p>
調査結果	<p>1 熱源が異なる暖房機による省エネ効果の確認 実証を行った11月～1月までの3か月間の電気料金と燃料費の合算で比較すると（A重油54円/ℓ、プロパンガス243円/㎡）、A重油料金が安価であったためガスヒートポンプと加温機の併用のほうがコストがかかってしまった。</p> <p>2 パットの気化熱効果を利用して空冷式ヒートポンプの空気を冷却した際の省エネ効果の確認 実証を行った9月～2月までの6か月間の電気量・料金を比較した結果、パッドを設置したほうが25%の削減効果があった。（設置費用含まず）</p>
考察	<p>1 今回の調査では、冬季暖房におけるガスヒートポンプの燃油削減効果は、A重油価格が63円/ℓを上回ると有利になる。</p> <p>2 実証結果に加え、夏季期間を含む1年を通じた調査により、1年間トータルの削減効果や、効果が上がりやすい時期・条件を検証する。</p>
担当者名	井上、小磯

オ 畜産

課題名	飼料用トウモロコシの不耕起栽培実証
背景と目的	混住化により堆肥散布ができない飼料畑の生産安定を図るため、マメ科牧草による地力維持と雑草抑制と、不耕起播種による飼料用トウモロコシの省力安定栽培技術を実証する。
協力機関	生研センター(不耕起播種機及び不耕起栽培技術支援)
調査内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 実証ほ場 狭山市火山灰飼料畑 2 播種機 生研センター試作版2条高速不耕起播種機 3 播種日 5月28日(ヘアリーベッチ収穫後) 4 調査項目 播種速度、播種深度、収量
調査結果	<p>播種速度 6km/時(最大8km/時)、播種深度 6.0cm、 収量 8ロール/10a(慣行播種 10ロール/10a)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>播種深度はほぼ均一に6cm程度</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>乾燥による苗立のバラつき</p> </div> </div>
考察	<p>播種期前後は降雨が少なく土壌含水比が低かったため、不耕起播種では苗立のバラつきが大きく、慣行播種に比べて収量が低い結果となった。他県の結果では、播種深度が8cm程度までは深いほど苗立率が安定するという報告があるので、もう少し播種深度を深く設定しておけば、慣行播種と同等の収量を得られた可能性がある。</p> <p>また、ヘアリーベッチ収穫後に耕耘してから不耕起播種機で播種する区も設置したが、火山灰土壌で轍跡が深くなるため、適切な播種深度とならず、不耕起播種よりも苗立のバラつきが大きくなった。土壌硬度が低い火山灰土壌などで、耕耘後に生研セーター式不耕起播種機を使用する場合は、播種精度を高めるために播種前鎮圧が必要と考えられた。</p>
担当者名	渡辺、大宅

カ 普及方法

課題名	重点プロジェクト活動のあり方について
背景と目的	<p>普及活動の強化のため、「プロジェクト型普及活動の展開」が平成26年度から始まり、全国で取り組まれている。重点プロジェクト計画は、「農業革新支援専門員等が地域農業の生産面・流通面の革新を行う活動」（農林水産省 協同農業普及事業の実施についての考え方（ガイドライン））とされているが、課題選定や活動体制などの状況は各都県でまちまちであり、望ましいプロジェクト型普及活動のあり方が明らかでない。</p> <p>このため、各都県における代表的な重点プロジェクト計画を分析することにより、関東ブロックのプロジェクト型普及活動の実態を総括するとともに、自慢できる活動から効果的な活動方法を整理分析し、今後のプロジェクト型普及活動の推進に活用する。</p>
協力機関	関東ブロック普及活動調査研究会（関東農政局、関東ブロック各都県普及方法担当農業革新支援専門員）
調査内容	<p>1 各都県から、重点プロジェクトの取組方針及び「一押し」の自慢できる重点プロジェクト活動を収集し、どのような活動を行っているか、事例分析を行った。</p> <p>2 各事例の分析結果から、望ましいプロジェクト型普及活動のあり方を検討し、さらに効果的なプロジェクト型普及活動のポイントをまとめた。</p> <p>まとめにあたっては、プロジェクト型普及活動のスタイルを「新技術型」および「産地型」に分け、計画段階、活動段階のそれぞれの特徴を探るとともに、農業革新支援専門員の役割を考察した。</p>
調査結果	<p>1 重点プロジェクト活動の整理</p> <p>各都県の一押し事例を分析した結果、重点プロジェクト活動は、新技術型と産地型に分かれることが判明した。新技術型では、試験研究機関や民間企業との連携が重要で、産地型では、生産者組織や行政、農協等との連携が重要である。</p> <p>2 農業革新支援専門員が果たす役割</p> <p>重点プロジェクト活動は、新技術型、産地型ともにその活動段階において、農業革新支援専門員がチームリーダーとして機能することが成果をあげるための大きな要素になっていることが明らかになった。</p>
考 察	<p>協同農業普及事業のガイドラインでは、重点プロジェクトは農業革新支援専門員が中心となって計画・実行していくものとされている。このため、農業革新支援専門員の役割は次の4点が重要と考えられる。</p> <p>① 関係機関と連携したチーム活動を展開</p> <p>重点プロジェクト活動では、行政、農協、試験研究機関、大学、民間企業等、多様な関係機関と協力して課題解決にあたる。このため、農業革新支援専門員は、試験研究と普及の連携に留まらず、多様な関係機関の得意分野を見極め、適材適所で同じゴールに向かったチーム活動を推進する。</p>

	<p>② 活動のリーダーとしてコーディネート</p> <p>地域や産地の課題解決には、チーム内の連絡調整が不可欠である。農業革新支援専門員は、課題解決のリーダーとして各関係機関をコーディネートし、チームの総合力が発揮できるよう努める。</p> <p>③ 農業者と異業種のマッチングを支援</p> <p>新技術、新品種の導入では、新たな生産方式や販売方法を導入する場合がある。新たな加工方法や流通方式の導入では、加工業者や機械メーカー、観光業者等異業種との連携が欠かせない。このため、農業革新支援専門員は、農業者のニーズを充足する異業種とのマッチングを支援することが求められる。</p> <p>④ 多面的活動を展開</p> <p>産地や広域の課題解決では、生産方式や販売方法などの部分的対応では、課題解決が進まない事例もあった。このため、現場の問題を試験研究や民間企業につなぎ、新たな栽培方式や生産資材を供給することで、課題解決につながる場面があった。農業革新支援専門員は、課題を多面的に観察し研究、生産、加工、流通を束ねた多面的活動を行う必要がある。</p> <p>重要な地域農業の課題解決のために、農業革新支援専門員が最新の知見やノウハウに基づく高度なプロジェクトを展開する一方で、普及指導員との役割分担を適切に行い、とかく技術の切り売りに陥りがちな、若い普及員の総合的な普及指導力が養成されるよう配慮する。</p>
担当者名	本間利明

(6) 普及指導員に対する研修指導

ア 集合研修

区分	研修名(担当者)	目的・内容	対象者	時期(期間)	場所・方法(実施場所)
新任普及職員研修	新任普及職員研修 (松本、本間)	目的：普及指導活動に必要な基礎知識、手法等を習得する。 内容： 1 協同農業普及事業の概要 2 普及指導員の役割 3 普及方法等に関する能力の向上 4 農業経営管理に関する基礎能力の習得 5 試験研究機関等との連携 6 農業大学校との連携 講師：農業革新支援担当、農技研研究員、農業大学校職員等	平墳文菜(さいたま) 田邊香織(川越) 栗原菜月(東松山) 山口史穂(秩父) 石田杏美(本庄) 新井紀仁(大里) 西澤莉穂(大里) 中山亮(春日部) 吉岡遼(春日部)	7月21日 7月27日 7月28日 7月29日 7月30日 7月31日 8月3日 8月4日 8月5日 8月6日 9月3日 (11日間)	講義・演習 県庁周辺会議室、農業技術研究センター、茶業研究所、農業大学校、現地
専門研修	専門研修(野菜) 2・3年目 (齋藤、赤羽)	目的：野菜の生産技術について専門的な普及指導活動ができるようになる。 内容： 1 施設野菜(きゅうり、葉物)、露地野菜(なす、さといも、ねぎ、ブロッコリー)の管理技術、調査方法及び現地調査 2 野菜のIPM技術 講師：農業革新支援担当 農技研研究員等	田中俊光(大里) 石田明日香(春日部) 和田駿一(さいたま) 谷内悠馬(川越) 石井裕也(東松山)	8～2月 (9日間) 8月24日 9月2～3日 11月11～12日 11月25～26日 12月17日 2月16日	講義・実習 農技研(本所、久喜) 関係農林振興センター等
技術高度化研修	技術高度化研修(野菜) 4～10年目 (齋藤、赤羽)	目的：野菜の生産技術について高度かつ専門的な技術指導力の向上を図る 内容： 1 野菜の省力・低コスト栽培対策の習得 2 県内の省力・低コスト生産事例 講師：農業革新支援担当 農技研研究員等	花井智恵(川越) 白敷幸子(川越) 佐藤拓也(秩父) 川井明子(加須) 高橋久美子(加須)	11月26日 (1日間)	講義・実習 農技研(本所、久喜) 関係農林振興センター等
	技術高度化研修(作物) 4～10年目 (田中か、松本)	目的：作物の生育の的確な診断と技術対策指導能力の向上を図る。 内容： 1 気象状況に対応した栽培法の習得 2 現地課題対策の習得 講師：農業革新支援担当 農技研研究員等	笠原香子(秩父) 小指美奈子(大里) 川井明子(加須) 高橋久美子(加須)	7月22日 (1日間)	講義・実習 農技研 関係農林振興センター他
農業経営法人化	農業経営法人化(本間)	目的：法人化支援に係わる指導能力向上を図る。 内容： 1 農業経営の発展を支援するための支援方法(農業簿記・経営診断・労務管理等) 2 現地における法人化支援事例検討 講師：税理士・司法書士・社会保険労務士等	舟田一与(さいたま) 佐々木広巳(川越) 森田晃(東松山) 大場保孝(秩父) 篠原正明(本庄) 大関勉(大里) 遠藤浩(加須) 大野晃義(春日部)	7月7日 10月9日 (2日間)	講義・討議・演習 農技研
	生産安定技術研修(作物) (田中か、松本)	目的：水稻安定生産に関わる指導能力の向上を図る。 内容： 1 機器類の活用による品種育成の取組について 2 最近問題となっている病害虫の防除技術の習得 講師：農技研研究員、農業革新支援担当	重松統(さいたま) 杉田淳(川越) 稲村隆治(東松山) 根岸七緒(秩父) 武井由美子(本庄) 細淵健(大里) 山本和雄(加須) 村田大樹(春日部)	6月11日 (1日間)	講義・実習 農技研 関係農林振興センター他

区分	研修名(担当者)	目的・内容	対象者	時期(期間)	場所・方法(実施場所)
農業経営高度化研修	生産安定技術研修(野菜) (齋藤、赤羽)	目的: 野菜における生産安定技術の習得 野菜における生産安定技術に関する知識・技術を習得し現地指導力を養成する。 内容: 1 病害虫の診断と対策について 2 最新の試験研究成果について 3 加工・業務用野菜栽培について 講師: 農業革新支援担当、農技研研究員 等	吉野マヤ香(さいたま) 安田登美(川越) 田中 健(東松山) 松葉口修(秩父) 橋本 円(本庄) 西田聡恵(大里) 川内亜紀(加須) 鳥居恵実(春日部)	12月15日 (1日間)	講義・実習 農技研
	生産安定技術研修(果樹) (片野、小野田)	目的: 果樹における改植及び現地導入技術の習得 なし、ぶどう等の老木樹の改植方法と現地で行われている最新技術を習得し現地指導力を養成する。 内容: 1 果樹の改植方法 2 なしジョイント仕立て、埼玉式早期成園化技術 3 ぶどうの無核栽培 4 なしの整枝せん定 5 ブルーベリーのせん定技術の習得 講師: 農業革新支援担当、農総研研究員、外部講師	入江尚彦(さいたま) 安田登美(川越) 花井智恵(川越) 森田 晃(東松山) 新井一仁(東松山) 上野亜由子(東松山) 石原美樹(秩父) 松葉口修(秩父) 関口賢司(本庄) 金井小貴子(本庄) 岡田 格(加須) 村田紀子(春日部)	5月15日 6月2日 6月23日 12月7日 1月15日 (5日間)	講義・実習 久喜試験場 関係農林振興センター他
	生産安定技術研修(花植木) (小磯、井上)	目的: 花植木における品質向上技術の習得 花植木の栄養診断による品質向上技術や切り花の日持ち保証販売等に関する対策等について知識・技術を習得し現地指導力を養成する。 内容: 1 花き生産振興対策等について 2 シクラメン等の高品質栽培技術対策について 3 球根切り花の日持ち性向上対策について 4 その他 講師: 農業革新支援担当、研究員	雨木郁子(さいたま) 田島光恵(川越) 上野亜由子(東松山) 岡本信子(秩父) 高井芳久(本庄) 篠川信仁(大里) 高橋久美子(加須) 東屋 希(春日部)	1月25日 (1日間)	講義・実習 農業技術研究センター他
	生産安定技術研修(畜産) (渡辺、大宅)	目的: 自給飼料の安定生産・品質向上技術の習得 自給飼料の生産・調製に関する知識・技術を習得し現地指導力を養成する。 内容: 1 WCS専用高糖分稲について 2 その他 講師: 農業革新支援担当	重松 統(さいたま) 吉田 充(川越) 畠山修一(東松山) 大場保孝(秩父) 篠原正明(本庄) 畑原昌明(大里) 山口 敦(加須) 村田大樹(春日部)	10月28日 (1日間)	講義・実習 大里農林振興センター研修室他
	生産安定技術研修(茶) (小川)	目的: 茶の新たな需要開拓を図るため、紅茶の品質評価および加工方法に関する指導能力向上を図る。 内容: 1 和紅茶の品質評価について 2 紅茶製造条件の検討 講師: 農業革新支援担当、茶業研究員	石澤 浩(川越) 岡山 研(秩父)	11月25日 (1日間)	検討・実習 茶業研究所
	園芸施設研修(齋藤、赤羽)	目的: 施設園芸の安定生産を図るため、施設の設置及び管理に関する指導能力向上を図る。 内容: 1 気象の基礎知識及び気象現象とその予測について 2 温暖化による気象現象の変化とその対応 3 環境科学国際センターにおける農業関連業務について 4 気象災害における園芸施設の対応について 講師: 1 環境科学国際センター職員 2 農業革新支援担当	梶田裕介(さいたま) 雨木郁子(さいたま) 菅原章夫(川越) 鈴木知子(川越) 田中 健(東松山) 上野亜由子(東松山) 岡山 研(秩父) 岡本信子(秩父) 西村芳枝(本庄) 高井芳久(本庄) 田口富士雄(大里) 篠川信仁(大里) 新井美里(加須) 高橋久美子(加須) 江原洋一(春日部) 東屋 希(春日部)	7月14日 (1日間)	講義・討議 環境科学国際センター(加須市)

区分	研修名(担当者)	目的・内容	対象者	時期(期間)	場所・方法(実施場所)
	農産物安全研修 (赤羽)	目的：GAPの一層の普及推進を図るため、指導能力の向上を図る。 内容： 1 GAP現場指導に必要な知識・手法について 2 埼玉県の取組み方針、事例について 講師：農業革新支援担当、農産物安全課、外部講師等	入江尚彦(さいたま) 伊藤 勉(川越) 新井一仁(東松山) 松葉口修(秩父) 関口賢司(本庄) 熊谷幸博(大里) 村田大樹(春日部)	1月25日 (1日間)	講義・討議 農技研
	6次産業化 (河野り 河野さ)	目的：6次産業化支援の高度化を図る 内容： 1 6次産業化における事業計画書の役割 2 6次産業化支援のための経営、財務、オペレーションマネジメントについて 講師：農業革新支援担当	尾崎明美(さいたま) 九十九薫(川越) 西川美穂(東松山) 石原美樹(秩父) 青木一恵(本庄) 戸邊一成(大里) 遠藤浩(加須) 村田紀子(春日部)	5月13日 5月20日 (2日間)	講義・討議・ 演習 2日間とも 衛生会館52 1会議室
	農産物活用 (河野り)	目的：農産物活用に関する指導能力向上を図る 内容： 1 食品表示法の概要と支援の方策について 2 加工商品の品質管理について 講師：(一財)日本食品分析センター 農業革新支援担当	尾崎明美(さいたま) 九十九薫(川越) 西川美穂(東松山) 池田順子(東松山) 石原美樹(秩父) 青木一恵(本庄) 戸邊一成(大里) 小指美奈子(大里) 遠藤浩(加須) 大川恵美子(加須) 新井美里(加須) 村田紀子(春日部)	5月27日 (1日間)	講義・討議・ 演習 本庁舎121 会議室
	鳥獣害防止対策研修 (片野)	目的：鳥獣害防止対策指導を行う技術指導者の育成に関する関係法律や技術の習得を図る。 内容： 1 鳥獣保護や鳥獣害対策に係る制度について 2 主要獣害の基本的な考え方と防除技術 3 獣害防除柵の組立てと現地研修 講師：農総研研究員等	吉野マヤ香(さいたま) 齋藤敦子(川越) 畠山修一(東松山) 山口史穂(秩父) 上野邦男(大里) 岡田 格(加須) 高橋久美子(加須) 中山 亮(春日部)	5月28日 6月2日 7月17日 7月24日 (4日間)	講義・演習 農林振興セン ター他
普及指導員養成研修	普及指導員養成研修 (松本、本間)	目的：普及指導員資格取得者を養成する。 内容： 1 合格者による体験談 2 審査課題ア、イ、ウの傾向と対策 3 審査課題ウの作成 講師：農業革新支援担当	大庭恵美子(さいたま) 谷内悠馬(川越) 笠原香子(秩父) 小指美奈子(大里) 田中俊光(大里) 石田明日香(春日部) 5月15日のみ 和田駿一(さいたま) 田邊香織(川越) 石井裕也(東松山) 吉岡遼(春日部)	5月15日 6月12日 7月10日 7月29日 (4日間)	講義・討議・ 演習 農技研

イ 国等への派遣研修

コード	研修名	目的・内容	対象者	時期(期間)	実施機関 (実施場所)
A01	新規普及職員研修	普及指導員の役割・目的意識の醸成等普及事業全般の習得 ・農政・普及事業をめぐる情勢 ・農業者に対するプレゼンテーション技術 ・普及指導員の役割と普及指導活動の技術及び方法 ・農作業安全と普及指導員の役割等	平墳文菜(さいたま) 谷内悠馬(川越) 栗原菜月(東松山) 中山亮(春日部) 吉岡遼(春日部)	9月29日～ 10月2日 (4日間)	農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市)
			田邊香織(川越) 山口史穂(秩父) 新井紀仁(大里) 西澤莉穂(大里)	11月17日～20日 (4日間)	
A04	新任農業革新支援専門員研修	農業革新支援専門員の役割・目的意識の醸成と業務推進方法の習得 ・農業革新支援専門員を中心とした新たな普及活動の展開 ・研究と普及の連携構築 ・普及指導活動の総括・企画調整機能 ・普及指導員の資質向上	齋藤仁(農技) 佐々木功二(茶研) 小磯由美(農技)	8月26日～28日	農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市)
			大宅秀史(農技)	10月14日～16日 (3日間)	
A06	普及指導センター所長研修	普及組織の総合力の発揮に向けたマネジメント手法等の習得 ・今後の普及活動の展開方向 ・最近の農政課題と普及への期待 ・普及指導センター所長の役割・あるべき姿 ・普及組織の総合力の発揮に向けた組織マネジメント	並木治男(川越) 志水久夫(秩父) 須賀昭雄(加須)	7月23日～24日 (2日間)	農林水産省技術普及課 (東京都千代田区)
B04	地球温暖化適応策研修 (施設園芸)	施設園芸の温暖化適応技術の習得 ・地球温暖化による農業生産の課題と対策 ・施設園芸の地球温暖化適応技術(高温適応技術) ・施設園芸の地球温暖化適応技術(被覆資材の特徴と利用方法)および地域における取組状況 ・施設園芸における地球温暖化に関する課題と今後の普及活動	井上玲子(農技)	6月24日～26日 (3日間)	農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市)
B07	有機農業普及支援研修	有機農業の基礎的知識・技術と普及指導体制の習得 ・有機農業の推進方向と施策 ・有機農業の経営理念と実践 ・有機農業の推進と今後の課題 ・有機農産物の販路拡大について	赤羽孝之(農技)	9月15日～18日 (4日間)	農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市)
B16	農産物輸出促進研修	海外マーケットの分析・輸出戦略の構築と輸出プロセス習得 ・農産物輸出をめぐる情勢 ・輸出促進に向けた支援手法 ・農産物輸出促進に向けた地域の取り組み ・海外マーケットの現状と留意点	田中江里(茶研)	1月13日～15日 (3日間)	農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市)
C02	新品種・新技術コーディネーター研修 (麦類)	新品種・新技術、実需の動向及び産地形成における先進事例等の知識・技術の習得 ・収量の安定・向上につながる新品種 ・ブランド産地化に向けた有望品種 ・播種及び中耕作業の省力化 ・麦類の流通情勢、実需者が望む品種	松本明夫(農技)	10月7日～9日 (3日間)	全国農業改良普及支援協会 (共同通信会館 東京都港区)
C06	新品種・新技術コーディネーター研修 (花き)	新品種・新技術、実需の動向及び産地形成における先進事例等の知識・技術の習得 ・花卉のブランド化のための低コスト生産技術 ・切り花品質管理技術 ・花卉のIPM	小磯由美(農技)	11月4日～6日 (3日間)	全国農業改良普及支援協会 (共同通信会館 東京都港区)
C07	新品種・新技術コーディネーター研修 (茶)	新品種・新技術、実需の動向及び産地形成における先進事例等の知識・技術の習得 ・需要拡大が期待される、やぶきたと作期が異なる早生、晩生品種、特徴のある品種 ・遮光栽培によるアミノ酸増加技術等の品質向上技術 ・IPM技術 ・茶の流通情勢、実需者が望む品質 ・新品種導入事例、半発酵茶等の有利販売事例等	佐々木功二(茶研)	10月22日～23日 (2日間)	全国農業改良普及支援協会 (三会堂ビル 東京都港区)


コード	研修名	目的・内容	対象者	時期（期間）	実施機関 （実施場所）
C09	新品種・新技術コー ディネーター研修 （いも類）	新品種・新技術、実需の動向及び産地形成における先 進事例等の知識・技術の習得 ・低コスト生産技術 ・品質管理技術	齋藤 仁（農技）	9月14日～16日 （3日間）	全国農業改良普及 支援協会 （共同通信会館 東京都港区）
C10	新品種・新技術コー ディネーター研修 （飼料作物）	新品種・新技術、実需の動向及び産地形成における先 進事例等の知識・技術の習得 ・低コスト生産技術 ・品質管理技術	大宅秀史（農技）	11月11日～13日 （3日間）	全国農業改良普及 支援協会 （三会堂ビル 東 京都港区）
関 東 甲 信 静 ブ ロ ッ ク 研 修	関東ブロック提案型 研修	普及活動における効率的、効果的な情報発信の手法等 を習得し、普及現場での情報発信の能力向上を図る。 ・マスコミ関係者からのメッセージ ・農業情報ネットワークを活用した情報発信 ・効率的な資料作成、情報発信	笠原香子（秩父） 本間利明（農技）	2月24日 （1日間）	関東農政局 （さいたま市）
	青年・中堅普及職員 研修会	農政課題に対応した普及活動の方法や事例を検討し、 今後の現地課題解決のための普及指導に活かす。 テーマ「新規就農者の確保育成」 ・基調報告 「入間地域明日の農業担い手育成塾の 取組」 ・各都県事例報告 ・現地研修 風の丘ファームほか	吉野マヤ香（さいたま） 花井智恵（川越） 上野亜由子（東松山） 松葉口修（秩父） 橋本 円（本庄） 西田聡恵（大里） 岡田 格（加須） 鳥居恵美（春日部）	10月8日～9日 （2日間）	関東ブロック普及 職員協議会 （川越プリンスホ テル 小川町現 地）
	現地活動調査研究会	地域に根ざした様々な普及活動について調査研究し、 今後の普及活動の推進に資する。 テーマ「普及現場におけるGAP推進の取組み」 ・基調講演「GAPで農業経営はどう変わるか」 ・事例発表「生産者へのGAP導入支援の活動事例」	小川英之（茶研） 赤羽孝之（農技）	10月30日 （1日間）	関東ブロック普及 職員協議会 （ホテル信濃路 長野県長野市）


(7) 専門項目別技術連携会議

ア 作物

テーマ	現地で課題解決を要する作物関連技術の情報交換 農業技術研究センター、関係各課との連携
開催期日	平成28年2月15日(月) 13:30~16:30
開催場所	農業技術研究センター 展示・資料館1F会議室
出席者	各農林振興センター農業支援部技術普及担当(作物総括担当者) 農業革新支援担当
関係機関	農業技術研究センター高度利用・生産性向上研究担当 生産振興課主穀担当、農業支援課普及活動担当
<p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 水稻高温対策技術実証ほの結果について 2 小麦さとのそら実証ほの計画について 3 作物に関する普及計画について 4 情報交換 	
<p>会議結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「彩のきずな」品種実証ほと高温対策技術実証ほの実施結果について各農林間で情報の共有化を図った。 2 小麦さとのそら実証ほの設置状況を確認した。 3 平成28年度活動内容意見交換 4 情報交換 <ol style="list-style-type: none"> (1) 大豆新品種「里のほほえみ」栽培について (2) 関係各課から平成28年度新規事業等内容の説明 	
<p>今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年産小麦「さとのそら」の施肥現地実証の成果とりまとめ支援 2 新規事業等の取組支援 	

イ 野菜


テーマ	野菜の産地振興及び担い手の育成①
開催期日	平成27年6月12日(金) 9時30分から12時
開催場所	埼玉県農業大学校、
出席者	各農林振興センター農業支援部技術普及担当(野菜総括担当者) 農業支援課農業革新支援担当
関係機関	農技研 高度利用生産性向上研究担当、生産環境・安全管理研究担当
<p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新品種・新技術導入広域推進事業について 2 次世代施設園芸拠点(埼玉スマートアグリ推進事業)について 3 野菜の生産概要・作付け動向調査等の情報交換について 4 丸系八つ頭講習会 	
<p>会議結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新品種・新技術導入広域推進事業について 新品種によるさといも産地の活性化及びきゅうりのIPM技術について、事業の概要説明及び成果目標を説明。丸系八つ頭の推進では種芋貯蔵、調整機械等の課題確認を行った。IPM技術については、再建ハウスにあたって、防虫ネット(赤色ネット)等導入が進んでいる。 2 次世代施設園芸拠点(埼玉スマートアグリ推進事業)について 事業の目的及び推進状況について担当者から説明し、現場への還元について協議した。生産者と実需者のマッチングが目的となっている。 3 情報交換 平成26年度管内野菜主要品目生産概況及び管内野菜の作付動向、現地での新たな動き、昨年度の雪害を踏まえた今年度の現地の動きについて情報交換を行った。 4 丸系八つ頭講習会への参加 	
<p>今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年間の生産概況、作付動向について、継続実施することとなった。 2 各農林振興センターと連携したプロジェクト課題の推進を図る。 	

テーマ	野菜の産地振興及び担い手の育成②
開催期日	平成28年1月6日(水) 10時～16時
開催場所	農技研本所 展示・資料館1階研修室
出席者	各農林振興センター農業支援部技術普及担当(野菜総括担当者) 農業支援課農業革新支援担当
関係機関	農技研 高度利用生産性向上研究担当、生産環境・安全管理研究担当
<p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 試験研究成果の普及定着について 2 加工・業務用野菜について) 3 野菜の作付け動向調査について 4 情報交換 	
<p>会議結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 試験研究成果の普及定着について 研究成果及び研究途上の課題について各担当から説明を受け、現地へ普及定着させるための手段、技術の改善(新技術実証の活用など)、研究課題への要望について情報交換し、次年度の活動に向けた協議を行った。 2 加工・業務用野菜について 農商工連携・6次産業化拠点整備支援事業について革新支援 6次化担当河野主幹より説明。各地域の多彩な需要に対応した野菜生産について、各農林から事の事例について今後の展開や新しい動きについて検討した。 3 野菜の作付け動向調査について 各農林から、新たな動きについて説明を受けた。在来種えだまめの状況についての取組み状況を検討した。 4 情報交換 野菜の生産概況調査について検討を行った。 環境制御装置等の導入状況調査について、急激に導入事例が増えているため今後の支援等に反映させるための現状把握を行なうことになった。 新品種・新技術推進導入広域推進事業の次年度要望について、具体的な推進について協議した。 	
	
<p>今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年間の生産概況、作付動向について、継続実施する。 2 環境制御装置等の導入状況に関する調査について、高知県の調査様式を参考に県版の様式を作成する。 3 各農林振興センターと連携したプロジェクト課題の推進を図る。 	

ウ 果樹

テーマ	県内なし産地の防除暦検討
開催期日	平成27年11月10日(火) 午前9時30分から16時
開催場所	埼玉県農林総合研究センター 久喜試験場
出席者	各農林振興センター農業支援部技術普及担当(果樹総括担当者) 農業支援課農業革新支援担当
関係機関	農総研病害虫防除技術担当、久喜試験場果樹担当 JA南彩アグリアドバイザー
<p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成27年防除実績について 各農業支援部担当者からそれぞれの産地の病害虫発生状況について発表 果樹研究から防除比較試験の結果報告(ニセナシサビダニ対策) 病害虫防除技術研究から農薬低減防除試験結果について 	
<p>会議結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 防除実績に基づく次年度防除暦の作成について 全体的に問題となった病害虫は、「ニセナシサビダニ」、「ハダニ」 産地によっては問題となった病害虫は、「黒星病」、「ナシヒメシンクイムシ」、 「ナシキジラミ」等であった。 なし防除暦の基準版の作成 果樹研究担当で基準版を作成し、それを基に各担当者が見直しをしながら産地の実 情に合った防除暦を作成する。 	
<p>今後の課題</p> <p>今回は、なし防除暦の検討で終わってしまったが、県内主要果樹であるぶどうの防除 暦の検討も今後進めていく必要がある。</p>	

エ 花植木

テーマ	花植木の産地振興及び担い手の育成
開催期日	平成28年1月25日(月)午後1時～4時
開催場所	埼玉県農業技術研究センター
出席者	各農林振興センター農業支援部 花植木総括担当者 農業技術研究センター 農業革新支援担当
関係機関	生産振興課、花と緑の振興センター、 農業技術研究センター 施設園芸先端技術研究、 農業大学校、種苗センター、J A全農さいたま花植木事務所、
<p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成27年度主要花植木の生産・作柄状況、新しい産地の動きについて 平成27年度花植木の流通状況と今後の見通しについて 関係機関からの情報提供について 	
<p>会議結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 各振興センターから生産・作柄状況、新しい産地の動きについて情報交換を行った。 J A全農さいたま花植木事務所から、花植木の流通状況と今後の見通し、花植木商談会についての情報提供があった。 生産振興課から次年度の事業概要について、花と緑の振興センターから川口を中心とした花植木事業の取り組み状況、種苗センターから育苗受託について、農業大学校から卒業生の就職先等について情報提供があった。 農業革新支援担当から、新品種・新技術導入推進事業に関する報告を行った。また、切り花の日持ち保証に関する情報提供を行った。 施設園芸先端技術研究から、ユリの香り抑制について報告があった。 	
	
<p>今後の課題</p> <p>県内の花植木に関する情報の共有化を図るため、次年度以降も継続して会議を開催する。</p>	

(8) 全国レベルの農林業賞の推進

表彰事業名	日本農業賞
受賞者	白石光江 白石宗一
内容	<p>個人経営の部・特別賞</p> <p>本庄農林振興センターから個別経営の部で推薦のあった白石光江氏は、女性企業家として「古代豚」ブランドを確立し、養豚業の傍らJA理事など積極的に農業や女性の活躍に係る活動に参画している点などを評価し、書類審査・現地調査を支援し、都道府県審査により本県代表として選定した。</p> <p>その後全国審査の結果、個人経営の部において特別賞を受賞した。</p>

(9) 気象災害等の技術対策

ア 気象災害対策資料

気象災害等に対する農作物等管理技術対策資料案を作成し、農業支援課に提供した。

公表日	内 容
平成 27 年 4 月 8 日	低温に伴う農作物等管理技術対策について
平成 27 年 4 月 13 日	突風・降雹に伴う農作物等管理技術対策について
平成 27 年 5 月 11 日	台風6号に伴う農作物等管理技術対策について
平成 27 年 5 月 29 日	少雨に対する農作物等管理技術対策について
平成 27 年 7 月 10 日	長雨及び台風に対する農作物等管理技術対策について
平成 27 年 7 月 21 日	高温に対する農作物等の技術対策について
平成 27 年 7 月 23 日	大豆の冠水害に関わる農作物技術対策について
平成 27 年 7 月 31 日	水稻の高温対策(穂肥)
平成 27 年 8 月 18 日	水稻の高温対策(刈取り適期)
平成 27 年 9 月 1 日	日照不足に対する農作物等管理技術対策について
平成 27 年 9 月 8 日	台風18号に対する農作物等管理技術対策について
平成 27 年 9 月 15 日	台風18号に伴う大雨被害の技術対策について
平成 27 年 9 月 16 日	日照不足に対する農作物等管理技術対策について
平成 27 年 9 月 16 日	台風20号に対する農作物等管理技術対策について
平成 27 年 10 月 1 日	強風雨に対する農作物等管理技術対策について
平成 27 年 12 月 16 日	降雪に対する農作物・農業用施設の技術対策について
平成 28 年 1 月 6 日	暖冬に伴う麦類の栽培管理技術対策について
平成 28 年 1 月 19 日	降雪に伴う農作物・農業用施設被害の技術対策について
平成 28 年 1 月 22 日	降雪に対する農作物・農業用施設の技術対策について
平成 28 年 1 月 28 日	降雪に対する農作物・農業用施設の技術対策について
平成 28 年 1 月 29 日	1月18日の降雪に伴う農作物等被害の技術対策について
平成 28 年 3 月 23 日	低温・降霜に対する技術対策について
平成 28 年 3 月 29 日	降雹・降雹に伴う農作物の技術対策について

イ 技術対策資料

農業技術研究センターとして、次の農作物等管理技術対策資料を作成、配布した。

(ア) 総合

平成 27 年 4 月における農作物の生育状況と降霜に伴う技術対策 平成 27 年 4 月 2 日

(イ) 作物

平成 27 年産水稻の高温対策について 平成 27 年 7 月 29 日

(ウ) 茶

クワシロカイガラムシの発生状況と防除方法について(第1世代) 平成 27 年 5 月 12 日

クワシロカイガラムシ(第2世代)の発生状況と防除方法について 平成 27 年 7 月 13 日

クワシロカイガラムシ(第3世代)の発生状況と防除方法について 平成 27 年 9 月 15 日

(10) その他

ア 情報誌等への原稿執筆状況

- ・ 水稲の生育概況 4回発行(6、7、8、9月)
- ・ 麦類の生育概況 6回発行(4、5、12、1、2、3月)
- ・ 日本農業新聞「今月の水稲管理」(6～9月)(松本明夫)
- ・ 日本農業新聞「今月の麦管理」(10～3月)(松本明夫)
- ・ 普及活動情報 平成28年2月号
「水稲の白未熟粒軽減化技術の実証」(松本明夫)
- ・ 施設の園芸「ミニ情報」6月号
「きゅうり産地力強化のための取り組み」(赤羽孝之)
- ・ JAいるま野広報誌「いるま野」2月号
「茶のクワシロカイガラムシの冬期防除及びお茶の新品種について」(田中江里)
- ・ 茶業技術 第59号 2016年3月末刊行
「クワシロカイガラムシ防除の現地実証について(続報)」(田中江里)

イ 講演・助言・コーディネート活動状況

生産者、JA職員等への技術指導、講演や助言等を行った。

【作物・経営関係】

企画・研修等名称	期 日	内 容	担 当 者
加須地区法人化研修会	7月3日	雇用労働の活用について	本間利明
児玉地域新規就農担当者会議	10月30日	新たな農業経営指標について	本間利明
新規就農者セミナー	11月10, 17, 24日	農業簿記について 経営計画策定について	本間利明
農業経営改善セミナー	12月9日	新たな農業経営指標について	本間利明
ビール麦取扱い対策会議	5月1日	ビール麦生育について情報提供	松本明夫
ビール麦巡回調査	5月13日	ビール麦生育状況の助言支援	田中克典 松本明夫
水稻高温対策技術研修会	7月3日	水稻高温対策の取組と病虫害防除のポイントについて講義	田中克典 松本明夫
気象変動適応産地づくり事業現地検討会	8月20日	事業支援	田中克典
米麦改良協会常任幹事会	7月24日	麦種子の配布価格に関する検討会で助言指導	松本明夫
平成27年度主要農作物採種事業研修会	7月7日	採種組合生産者、関係団体との研修会を支援	田中克典 松本明夫
ビール大麦結果検討会	9月2日	平成27年産の品質・収量に関するビール会社、関係団体との検討会で助言支援	松本明夫
米麦改良協会常任幹事会	11月6日	水稻・大豆の種子価格に関する検討会で助言	松本明夫
気象変動適応産地づくり事業成績検討会	2月26日	成績検討	松本明夫

【野菜関係】

企画・研修等名称	期 日	内 容	担 当 者
埼玉野菜研究会 きゅうり半促成作型巡回指導	4月9日	巡回ハウスでの助言	齋藤 仁 赤羽孝之
現地開発型技術実証課題支援	4月27日	資材メーカーとのコーディネート、検討助言	齋藤 仁 赤羽孝之
丸系八つ頭検討会（フードアルチザン）	4月21日	コンソシウムでの助言	齋藤 仁 赤羽孝之
丸系八つ頭栽培講習会（大学校、農総研ほ場）	6月12日	栽培指導助言	齋藤 仁 赤羽孝之
養液いちご研究会研修会（ミヨシ）	6月17日	情報提供、栽培指導助言	齋藤 仁 赤羽孝之
丸系八つ頭現地検討会（JAあだちの）	6月29日	栽培指導助言	齋藤 仁 赤羽孝之
JAふかや 丸系八つ頭現地巡回・栽培講習会	7月2日	栽培指導助言	齋藤 仁 赤羽孝之
低濃度エタノール土壌還元消毒実証	7月9日	研究独法等との調整コーディネート	齋藤 仁 赤羽孝之
埼玉苺組合連合会出荷反省会	7月10日	栽培経過説明、助言	齋藤 仁
現地開発型技術実証課題支援	7月15日	チコリ実証ほの設置支援	齋藤 仁 赤羽孝之
ネギアザミウマサンプリング（加須・本庄・さいたま）	7月22日	研究部門と現地普及部門とのコーディネート	齋藤 仁 赤羽孝之
チコリ現地実証試験支援（定植）	7月29日	実証ほ設置運営支援	齋藤 仁 赤羽孝之
丸系八つ頭現地検討会（妻沼地区）	10月22日	栽培指導助言	齋藤 仁
埼玉さといも協議会共進会	10月24日	生産物評価指導助言	齋藤 仁 赤羽孝之
丸系八つ頭目揃会（北本）	10月27日	栽培指導助言	齋藤 仁 赤羽孝之
丸系八つ頭研修会（嵐山女性会館）	10月29日	栽培指導助言	齋藤 仁 赤羽孝之
丸系八つ頭 優良種いも選抜支援（櫛引）	11月4日	栽培指導助言	齋藤 仁 赤羽孝之
チバクロバネキノコバエ防除対策情報交換会	1月13日	栽培指導助言	齋藤 仁 赤羽孝之
養液いちご研究会現地検討会	11月18日	栽培指導助言	赤羽孝之
埼玉野菜研究会 きゅうり促成立毛共進会	12月3日	きゅうりの栽培助言	齋藤 仁 赤羽孝之
さといも協議会幹事会	2月4日	幹事会での助言	齋藤 仁 赤羽孝之

VIII 農業革新支援担当

企画・研修等名称	期 日	内 容	担 当 者
小川青山在来ワークグループ会議	2月5日	大豆、枝豆としての助言指導	齋藤 仁
チバクロバネキノコバエ防除対策情報交換会	2月12日	栽培指導助言	齋藤 仁 赤羽孝之
丸系八つ頭反省会(フードアルチザン)	2月17日	コンソシウムでの助言	齋藤 仁 赤羽孝之
埼玉野菜研究会 きゅうり促成立毛共進会	2月23日	きゅうりの栽培助言	齋藤 仁 赤羽孝之
埼玉研 現地研修会	3月1日	上位出品者のきゅうり施設での研修会助言	齋藤 仁 赤羽孝之
埼玉研 とまと立毛共進会	3月3日	とまと施設での助言	齋藤 仁 赤羽孝之
低濃度エタノール還元土壌消毒現地検討会	3月16日	現地試験での助言	齋藤 仁 赤羽孝之
JA ちちぶいちご部会 平成27年度いちごセミナー	3月22日	セミナーでの助言	赤羽孝之

【果樹関係】

企画・研修等名称	期 日	内 容	担 当 者
久喜市なし組合防除検討会	4月20日	5月の防除計画となし園の管理について	小野田実
久喜市梨組合新梢管理講習会	5月20日	なしの新梢管理と今後の管理について	小野田実
久喜市なし組合防除検討会	5月20日	6月の防除計画となし園の管理について	小野田実
所沢市ぶどう組合	5月25日	ぶどう房づくり講習会	片野敏夫
彩玉栽培農家	6月5日	彩玉摘果、新梢管理講習会	片野敏夫 小野田実
西部梨組合摘果検討会	6月9日	なしの新梢管理と摘果実施と今後の管理について	片野敏夫
JAいるま野 日高市役所クリ打合せ	6月26日	クリの冷蔵貯蔵について	片野敏夫
狭山ぶどう組合ほ場巡回研修会	6月26日	生育状況確認及び今後の管理について	片野敏夫
JAいるま野西部果樹組合 ブドウ巡回研修会	6月30日	生育状況確認及び今後の管理について	片野敏夫
梨経営研究会	7月14日	横浜市梨農家視察研修	片野敏夫
JAいるま野 日高市役所クリ打合せ	7月22日	クリの冷蔵貯蔵、出荷体制について	片野敏夫
蓮田市 SS 防除連絡協議会 検討会	7月22日	出荷までの防除と管理について	小野田実
彩玉栽培農家	8月17日	彩玉目揃い会	片野敏夫 小野田実
果実連	7月27日	幸水出荷目揃い会	片野敏夫
皆野栗組合	9月1日	くり目揃い会	片野敏夫
秩父ぶどう組合	9月4日	ぶどう品評会審査	片野敏夫
シャインマスカット栽培者	9月18日	シャインマスカットの持ち寄り検討会	片野敏夫 小野田実
日高ぼろたん研究会	9月22日	ぼろたん目揃い会	片野敏夫
なしジョイント仕立て 研修会	11月7日	なしジョイント仕立て実証ほでのせん定研修	小野田実
農業支援部	11月10日	なし防除暦検討会	片野敏夫 小野田実
JAいるま野西部果樹組合 ナンせん定講習会	11月25日	ナシの整枝せん定について	片野敏夫
久喜市なし組合剪定講習会	11月4日	彩玉・あきづきの剪定を中心に行った。	小野田実
埼玉県果実連出荷反省会	11月26日	今年のなしの状況と彩玉中玉生産及び短期貯蔵について	小野田実
富士見梨出荷組合ナン せん定講習	11月27日	なしせん定講習	片野敏夫
川越市ぶどう組合せん 定講習会	12月3日	有核長梢栽培のせん定	片野敏夫

VIII 農業革新支援担当

企画・研修等名称	期 日	内 容	担 当 者
所沢ぶどう組合	12月4日	ぶどうせん定講習	片野敏夫
皆野栗組合クリ「ぼろたん」等せん定指導	12月14日	ぼろたんの整枝せん定について	片野敏夫 小野田実
梨経営研究会	12月16日	なしせん定検討会	片野敏夫 小野田実
彩玉栽培農家	12月17日	彩玉せん定講習会	片野敏夫 小野田実
JA いるま野西部果樹組合ぶどうせん定講習及び防除暦検討会	12月18日	ブドウの長梢・短梢せん定について、防除指導	片野敏夫
JAいるま野栗栽培者	12月22日	くりせん定講習	片野敏夫
熊谷市栗栽培者	1月14日	くりせん定講習	片野敏夫
ブルーベリー生産者	1月15日	ブルーベリーせん定講習	小野田実
JA ちちぶりんご部会せん定講習会	2月4日	りんごのせん定について	片野敏夫
久喜市なし組合	1月23日	平成27年度版なし防除計画について	小野田実
春日部市梨組合	1月27日	平成28年度なし防除計画について	小野田実
狭山ぶどう組合せん定講習会	2月5日	短梢せん定の若木管理について	片野敏夫

【花き関係】

企画・研修等名称	期 日	内 容	担 当 者
埼玉県シクラメン研究会現地検討会	8月18日	芳香シクラメン実証ほ設置内容及び生育状況について	小磯由美
埼玉県洋蘭生産者組合研修会	8月28日	病害虫防除について	井上玲子
比企生花組合	9月4日	クジャクソウの病害虫防除と農薬使用の注意点	井上玲子
埼玉県シクラメン研究会県外視察検討会	9月15～16日	芳香シクラメン実証ほ設置内容及び生育状況について 病害虫防除について	小磯由美
施設園芸生産者	9月28日	県内のヒートポンプ導入・利用状況について	小磯由美
日本ばら切花協会埼玉県支部	11月27日	日持ち性向上対策品質管理認証制度について	小磯由美
埼玉県花き園芸組合連合会鉢物部会研修会	2月18日	花の産地振興について	荻野時男
芳香シクラメン種苗配布&研修会	2月29日	芳香シクラメン生育特性と栽培管理のポイント	小磯由美
深谷市花き園芸組合連絡協議会講演会	3月11日	日持ち性向上対策品質管理認証制度について	小磯由美

【畜産関係】

企画・研修等名称	期 日	内 容	担当者
飼料稲長期保存サイレージ試験サンプリング	4月21日	研究独法とのコーディネート	渡辺喜正 大宅秀史
養豚経営研究会	5月22日、6月26日 8月28日、10月23日 11月20日、3月25日	経営管理技術等の指導、TPP大筋合意等の情報提供	大宅秀史
トウモロコシ不耕起播種試験	5月28日	研究独法とのコーディネート	渡辺喜正 大宅秀史
黒豚倶楽部勉強会	6月12日、6月18日	生産性向上対策、事故率低減への取り組み指導	渡辺喜正
彩の国地鶏タマシャモ普及協議会総会・研修会	6月9日	タマシャモ血統更新について	渡辺喜正
養豚協会通常総会	6月19日	養豚をとりまく情勢	渡辺喜正
和牛繁殖農協協議会総会	6月23日	家畜改良に関する育種価の推進	大宅秀史
埼玉県肉用牛経営者協会総会	6月29日	家畜改良に関する育種価の推進	渡辺喜正
粗飼料利用研究会、牛群検定組合、酪農協会合同研修会	7月1日	高糖分飼料イネ、トウモロコシ不耕起播種機について	渡辺喜正 大宅秀史
杉戸町畜産振興協議会	7月21日	畜産をとりまく情勢	渡辺喜正
埼玉県粗飼料利用研究会現地検討会	8月3日	高速不耕起播種機を活用したトウモロコシ二期作	渡辺喜正 大宅秀史
埼玉県肉用牛経営者協会青年部情報交換会	9月16日	夏季疾病対策、和牛繁殖育種価を用いた家畜改良の推進について	渡辺喜正
飼料稲長期保存サイレージ試験サンプリング	9月30日	研究独法とのコーディネート	渡辺喜正 大宅秀史
熊谷市酪農振興会研修会・現地検討会	10月5日	高糖分飼料イネの栽培について	大宅秀史
飼料稲新品種乳酸菌試験採材	11月5日	研究独法とのコーディネート	大宅秀史
トウモロコシあと麦高速不耕起播種試験	11月15日	研究独法とのコーディネート	渡辺喜正 大宅秀史
酪農協会乳牛改良部会推進会議	1月15日	籾米サイレージについて	大宅秀史

【茶関係】

企画・研修等名称	期 日	内 容	担当者
所沢市出品茶摘採期判定会	4月16日	出品茶摘採期判定指導	佐々木功二
鶴ヶ島市製茶機械調査指導会	4月17日	製茶機械の調査、指導を行った。	小川英之
入間市摘採期判定会議	4月20日	出品茶摘採期判定指導	佐々木功二
狭山市摘採期判定会	4月23日	出品茶摘採期判定指導	佐々木功二
入間茶研究会視察研修会	4月27日	静岡県掛川市にて視察研修を行った。	佐々木功二
三芳町初揉み会	4月29日	出品茶摘採製造指導	小川英之
毛呂山町茶部会総会	5月1日	一番茶摘採指導	田中江里
入間市製造研修会	4月25日～5月5日	出品茶摘採製造指導	小川英之 佐々木功二 田中江里
所沢市製茶指導	5月1日～4日 5月11、12日	新規就農者及び出品茶製造指導	小川英之 佐々木功二
狭山市製茶指導	5月1日	出品茶摘採製造指導	小川英之
クシロイカラムシ防除適期判定会	5月18、21、22日 7月21、24、28日 9月24、29日 10月2日	生産者への防除適期助言	小川英之 佐々木功二 田中江里
飯能市製茶技術指導	5月7日	製茶技術指導	小川英之
横瀬町製茶技術指導	5月18日	製茶技術指導	小川英之
小鹿野町製茶技術指導	5月19日	製茶技術指導	小川英之
三芳町茶業研究会総会	6月9日	二番茶製造指導	小川英之
狭山市出品茶仕上げ指導会	6月15日～19日	関品、全品、F.G.T.C 出品茶仕上げ技術指導	小川英之 佐々木功二 田中江里
所沢市出品茶仕上げ指導会	6月22日～25日	全品、関品用出品茶仕上げ技術指導	小川英之 佐々木功二 田中江里
入間市出品茶仕上げ指導会	7月1日～10日	全品、関品用出品茶の仕上げ技術指導	小川英之 佐々木功二 田中江里
紅茶製造技術指導	7月3日、8月12日	入間市、横瀬町の生産者に紅茶製造を指導	小川英之 佐々木功二
JAいるま野狭山茶生葉生産部会通常総会	7月10日	クシロイカラムシ発生・防除情報提供	小川英之
三芳町出品茶仕上げ指導	7月15日	関品用出品茶の仕上げ技術指導	小川英之
狭山茶ブランド確立事業選定会	8月5日	ブランド茶の選定評価を行った。	小川英之 佐々木功二 田中江里
青年団出品茶仕上げ指導	8月18日、9月1日	入間市、所沢市の青年団の出品茶仕上げ技術指導を行った	佐々木功二

VIII 農業革新支援担当

企画・研修等名称	期 日	内 容	担当者
飯能市仕上げ講習会	8月28日	仕上げ方法について実習を行った。	田中江里
入間市茶園現地指導会	10月6日	茶園を巡回し栽培管理の指導を行った。	田中江里
苗木組合巡回指導	10月28日	苗木組合員のは場の巡回指導を行った。	田中江里
西部茶業連絡協議会研修会	11月18日	製茶技術研修会	佐々木功二
さやま紅茶求評会	11月25日	県内産紅茶について生産者を中心とした求評会を行った。	小川英之 佐々木功二 田中江里
農業技術研究センター 成果発表会	1月29日	緑茶用品種を用いた狭山紅茶の開発と普及	佐々木功二
茶業研究所成果発表会	2月18日	品種についてのアンケート結果を発表した。	小川英之 佐々木功二 田中江里
県育成新品種求評会	2月23日	「おくはるか」「ゆめわかば」等の求評会を行い、今後の普及や新品種育成について検討した。	小川英之 佐々木功二 田中江里
入間くみあい製茶春の講習会	2月27日	GAPについて講習	小川英之
横瀬町茶業組合研修会	3月17日	整枝等栽培技術の指導	小川英之 田中江里
入間茶研究会現地指導会	3月18日	春先の茶園管理について現地講習会を実施	田中江里
入間くみあい製茶	通年	JGAP 認証取得に向けた支援	小川英之
県茶業青年団	通年	栽培・製茶技術及び経営指導等	小川英之 佐々木功二 田中江里

ウ 委員等委嘱活動

【作物・野菜関係】

審査会名	期 日	委 嘱 内 容	担 当 者
麦作共励会審査委員会	年1回	審査委員長	荻野時男
大豆共励会審査委員会	年1回	審査委員長	荻野時男
麦作共励会審査会幹事会	年4回	幹事	田中克典
大豆共励会審査会幹事会	年3回	幹事	松本明夫
埼玉県米麦改良協会幹事会	年4回	常任幹事	松本明夫
第39回施設野菜立毛共進会	4月7日、12月3日 2月23日、3月3日	審査長、審査員	荻野時男 齋藤 仁 赤羽孝之
第1回埼玉さといも協議会共進会	10月24日	審査長、審査員	福井純夫 齋藤 仁 赤羽孝之
埼玉県青年農業者研究大会	2月9日	審査委員長、審査員	荻野時男 渡辺喜正
生研センター人を対象とする研究倫理審査委員会	年1回	審査委員	本間利明

【果樹関係】

審査会名	期 日	委 嘱 内 容	担 当 者
彩玉共進会	8月25日	審査員	片野敏夫 小野田実

【花き関係】

審査会名	期 日	委 嘱 内 容	担 当 者
第58回日本ばら切花品評会	5月11日	審査員	小磯由美
第36回花の展覧会	6月19日	審査員	小磯由美
第41回比企生花組合花き共進会	7月24日	審査員	井上玲子
第37回比企生花組合立毛共進会	9月4日	審査員	井上玲子
第32回さいたま花の祭典品評会	11月19日	審査長 審査員	荻野時男 小磯由美 井上玲子
愛知豊明花き地方卸売市場鉢物品評会・2015鉢花・蘭の部	11月18日	審査員	小磯由美
全国花き品評会シクラメン部門	11月25日	審査員	小磯由美
鴻巣花き冬季品評会	12月1日	審査員	小磯由美
埼玉県シクラメン研究会共進会	12月8日	審査長 審査員	荻野時男 小磯由美 井上玲子
第65回関東東海花の展覧会花き品評会	2月11日	審査員	井上玲子
第39回埼玉県植木共進会	3月8日	審査員	井上玲子

【畜産関係】

審査会名	期 日	委 嘱 内 容	担 当 者
関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会	3月23～24日	審査員	渡辺喜正

【茶関係】

審査会名	期 日	委 嘱 内 容	担 当 者
狭山市茶業協会研究部「さやまかおり」品評会	7月22日	審査員	小川英之 佐々木功二 田中江里
入間市一番茶求評会	7月31日	審査員	小川英之 佐々木功二 田中江里
関東ブロック茶の共進会	7月28日～30日	審査員	小川英之 佐々木功二
狭山市製茶品評会	8月7日	審査員	小川英之 佐々木功二 田中江里
全国茶品評会審査会	8月24日～28日	審査員	小川英之
所沢市荒茶品評会・荒茶技術競技会	9月9日	審査員	小川英之 佐々木功二 田中江里
F.G.T.C 品評会審査会	9月10日	審査員	小川英之 佐々木功二 田中江里
お茶まつり狭山茶品評会	9月17日	審査員	小川英之 佐々木功二 田中江里
日高市茶園共進会	10月22日	審査員	小川英之
入間市茶園共進会	11月5日	審査員	佐々木功二 田中江里
入間市製茶品評会	11月11日	審査員	小川英之 佐々木功二 田中江里
狭山市農産物品評会製茶審査会	11月13日	審査員	小川英之 佐々木功二 田中江里
飯能市製茶求評会	11月20日	審査員	小川英之 佐々木功二 田中江里
所沢市茶園審査会	12月7日	審査員	田中江里
埼玉県特産物共進会（茶園の部）	12月15日	審査員	田中江里
埼玉県特産物共進会（茶園の部）	12月16日	審査員	久米信夫

【特産関係】

審査会名	期 日	委 嘱 内 容	担 当 者
埼玉県特産物共進会(こんにゃくの部)	10月16日	審査員	小川英之

5 平成27年度農作物の生育状況

(1) 作物

ア 水稲

12月4日関東農政局公表の作況指数は、県97（東部97、西部97）で、「やや不良」となった。

本年の気象は、5月の高温、7月上旬の低温・寡照、7月中旬～8月上旬の高温・多照、8月下旬～9月上旬の低温・寡照、9月中旬以降の多照など変動が大きく米の収量、品質への影響が大きかった。

早期、早植栽培では、早期栽培の出穂は、平年より7日程度早く、5月中旬田植では出穂が3～5日程度早まった。登熟も進んでいたが、移植日によって8月下旬～9月上旬の曇雨天の影響によって成熟期が遅れたり、収穫作業が遅れ刈遅れも見受けられた。

品質は早期栽培では高温障害と思われる白未熟粒が多く、また、早植栽培では総粒数が多く、8月下旬～9月上旬の日照不足であったことから整粒歩合が低い傾向にあり劣った。

普通栽培では、出穂期は平年並みであったが、8月下旬～9月上旬の曇雨天により出穂始めから穂揃期までの期間が平年より長く生育のバラつきが大きく、登熟もこの曇雨天の影響で遅延し、収穫作業も遅れた。また、収穫適期の判断が難しかった。

イ 大豆

本年は、6月下旬に適期播種できた圃場では、出芽も良好で順調に収穫を迎えた。しかし、適期播種できなかつた圃場では、播種期の雨や8月下旬からの長雨、収穫期での降雨など悪天候が続いた中で発芽や生育不良の圃場も見られた。また、10月下旬には木枯らし1号の影響により、収穫間近のほ場では裂莢脱粒してしまったほ場が多く見受けられた。2月23日農林水産省公表の調査結果で10a当たり収量91kg、平均収量対比77%となっている。（26年産125kg、99%）

(2) 野菜

（各センターの生育状況を参照）

(3) 果樹

ア なし

開花始めは平年よりも「幸水」で7日、「豊水」で6日早く、満開日は「幸水」で4月15日、豊水で4月9日となり、昨年と比べると2～3日早い開花となった。

結実は、幸水の開花期間中の天候は安定していたが、「彩玉」・「豊水」以降に開花する品種では、降雨や低温の影響で受粉作業が行いにくい状況であった。そのため降雨の合間に受粉した園では、着果量はある程度確保されたが、「彩玉」や「豊水」の長果枝では結実不良や変形果、すじ果の発生も多く見られた。

果実肥大は、4月中旬の平均気温が平年より0.2～0.9℃低かったものの、4月下旬から6月下旬までの気温が平年を上回り、日照時間も多く、果実肥大には好影響であった。「彩玉」、「豊水」及「あきづき」は7月下旬以降の果実肥大がやや低下した。

幸水の収穫開始日はGA処理で7月24日、無処理で8月3日となり平年よりGA処理で13日、無処理で9日早い収穫となった。彩玉は8月17日から収穫され、過去10年間の平均より3日早い収穫開始となった。

果実品質は、「幸水」、「豊水」は昨年よりやや大きい傾向で、糖度は昨年同様低い傾向となった。

病害では、赤星病や黒星病は平年並みの発生であった。

虫害では、ナシヒメシンクイムシの被害が6月頃から果実にみられ、収穫時期の被害が多くなることが心配されたが、適切な防除により平年並みの被害となった。近年多くなっているニセナシサビダニの被害は、昨年より減っているが、依然として多くみられる。また、ハダニ類の発生についても平年よりも多かった。

イ ぶどう

4月下旬から5月下旬までの気温が平年を上回り、開花は平年よりも1週間程度早まった。

巨峰の有核栽培では、開花期間中、天候に恵まれ、生育調査ほでは有核果率94.6%で、計画的な着房が可能となった。梅雨明けは平年並みであり、その後の7月中旬～8月上旬にかけ異常高温となり、8月下旬～9月上旬にかけ一転して低温、日照不足、多雨となり収穫期の果実に大きな影響を与えた。べと病、晚腐等の発生が多く、低収量になった園もあった。生育診断ほの平均糖度は19.2であったが、着色がやや劣る傾向であった。収穫始めは、平年より数日早まり、収穫期間も短い傾向にあった。その後、暖冬傾向となり、枝の登熟が不良であった。

シャインマスカットは、糖度が低く収穫時期も遅れがち、枝の登熟不良も目立った。

ウ クリ

4月下旬から5月下旬までの気温が平年を上回り、開花は平年よりも早ま

った。

全県的にクリタマバチによる虫えいの発生が非常に多く、弱小新梢だけでなく、やや弱めの新梢にも発生が見られ、新梢の枯れ込みが多い傾向であった。

開花期の天候に恵まれ、着穂数は多い傾向であったが、7月中旬～8月上旬の異常高温、収穫直前の低温、日照不足、多雨などにより、肥大が劣る傾向で、収量が低く小粒傾向となった。

8月下旬から最低気温の低下が早く、収穫が早まる傾向の中、「ぼろたん」は8月25日ころから収穫が開始され、収穫開始は10～14日早くなった。

収穫量は平年より少ない状況であった。

オ いちじく

出芽は4月中下旬と平年並みに始まり、新梢伸長、果実肥大ともに順調に推移した。

成熟は平年より早く、主産地の加須市では8月3日から出荷が始まった。8月中旬～9月中旬にかけて曇天・降雨が続き、果実腐敗や着色不足、ホルモン処理ができなかったことから出荷量が減少した。出荷期間を通して果実は平年並み～大きい傾向が続いたが、後半は果実が扁平になるなど変形果の発生がやや多くみられた。

病害虫では、アザミウマの発生は平年並み～やや少なかったものの、降雨が多かったことから梅雨期と8月後半から9月にかけて疫病の発生が多くみられた。

(4) 花植木

今年の気象経過は、4月下旬以降の高温に始まり7月上旬の低温・寡日照から一転して8月上旬までの高温多照、そして9月上旬までは低温・寡日照となり、記録的な大雨となった。その後は少雨・多照、10月以降は高温、11月以降は多雨・寡日照となるなど気象変動の大きい1年であった。病害虫は、7月中旬～8月上旬は気温が平年よりも高く、アザミウマ類やハダニ類、鱗翅目害虫が多く発生した。また、全体的に病害の発生が多かった。

春の苗物・鉢物は4月下旬以降、平年よりも気温が高く推移し生育は順調であった。ポットカーネーションは、4月の天候不順の影響で生育は遅れ気味であったが、その後の高温により生育は進み母の日向けの出荷は計画通りに進んだ。

ポインセチアは、梅雨明け後から8月上旬までの高温により一部に高温障害が発生した。その後曇雨天により軟弱徒長気味の生育であったが、出荷は平年並みで品質は良好であった。

シクラメンは、平年と比較して8月中旬以降は低温で経過し肥料の吸収が順調であったことからやや大葉、大株の傾向であった。また、11月以降の曇雨天の影響で灰色かび病、炭そ病などの発生が多かったが、開花は早まり品質は良好であった。

露地栽培のケイトウは、生育初期の乾燥とその後長雨の影響で発芽不良や生育不良が発見られ、品質にばらつきがみられた。

コギクは6~7月出荷では栽培期間中の高温・多照の影響で草丈は短く開花は7~10日程度前進化した。9月~12月出荷では、栽培期間中気温が高く推移したため草丈が長くなり、曲がりが多かった。

キンギョソウは育苗期の高温や、定植以降の寡日照により生育不良や立枯病が多く発生したが、その後気温が高く推移したため生育は順調に進み、開花は前進化した。

LAユリでは、夏季の低温・寡日照の影響で一部品質低下がみられたが、その後の天候の回復により生育は良好となった。年末出荷作型では、高温の影響により開花は10日程度前進化した。

チューリップは、NZ産球根の品質は良好で、栽培期間中の障害発生は少なく順調に生育した。オランダ産球根の入荷は遅れ作付計画は遅れていたが、11月以降の暖冬の影響で開花は前進傾向であった。

(5) 茶

茶樹の越冬状況は気温がやや高めに推移し、定期的な降水があったことなどから寒害の被害はほとんどなく平年に比べ良い状態であった。茶樹の生育が始まる3月後半も高温傾向であったことから新芽の動きだしも早かった。冷気が溜まる場所など一部では若干の晩霜害が見られた(品質・収量に影響なし)。一番茶の萌芽期は平年より早かったものの、4月中旬の天候不良により早場所の生育が抑えられた。また下旬からの高温傾向により遅場所の生育が促進され産地全体として摘採期が集中した。全般的には萌芽期以降も好天が続き生育は順調であった。しかし、降水量が少なかったため、新芽はやや硬化し、芽が軽く、収量が上がらない状況であった。梅雨入りは昨年より3日遅く、その後の平均気温は平年よりやや高く推移していたが、7月に入ると降雨が続いたことから平年より低くなった。二番茶の生育は萌芽期まで平年より早かったが、後半は天候がぐずついたため生育が緩慢となり摘採期は平年並みであった。7月10日の梅雨明け後8月上旬までに猛暑日が11日観測されるなど最高気温、平均気温とも高い傾向だったが、8月後半から9月中旬にかけて前線の停滞や台風の接近などにより平均気温は平年並から低く推移し10月前半まで平均気温は低めに推移した。その後10月後半から12月末まで平年並から高めに推移した。

降水量は、7月は多く、8月はやや少なかったものの9月は台風や前線の停滞により多く、10月は少なかった。その後は冬越しを控え定期的な降水が見られた。

秋芽の生育は初秋の曇天により抑えられ、硬化が遅れた。夜温が高めで推移したこと、土壌水分が十分であったことから枝条の木化、葉の硬化が緩やかで比較的軟弱なまま冬を迎える状態となった。